

No. 36

バングラデシュ農業科学
カレッジ (BCAS)
技術協力事前調査報告書

昭和58年4月

83

国際協力事業団

RY

農計技
36
83 36

JICA LIBRARY



1033937[2]

Bangladesh 農業科学
カレッジ (BCAS)
技術協力事前調査報告書

昭和58年4月

国際協力事業団

国際協力事業団
 (JICA) の事業
 に関するお問い合わせ先

頁 第 25 号 冊

| | |
|----------|------------|
| 国際協力事業団 | |
| 受入 月日 | '84. 3. 12 |
| 登録No. | 10063 |
| | 101 |
| | 80.7 |
| | AFT |

マイクロ
 ファイル作成

国際協力事業団

は し が き

Bangladesh は、国土面積 14.3 万 km² (うち河面積 1 万 km²)、人口 8,850 万人で、人口増加率年約 3% と高いが、1980 年の GNP 増加率は、0.8% であるので、同年の国民 1 人当り成長は前年度比マイナスとなっている。又、国民 1 人当り GNP 120 US\$ (1980 年) で、開発途上国の中でも最も遅れた国の一つである。

労働人口に占める農業の割合は 70% を越え、同国の主要輸出品目のジュート及びジュート製品、茶のみで、同国輸出総額の約 80% (81/82) を占め、又、慢性的食料不足のため、毎年かなりの食糧を輸入しているが、1979~80 年には、小麦、米の輸入量は合計 218 万屯に達した。同国にとって農業は最も重要な産業であるが、可耕地面積 9.4 万 km² (日本は 5.7 万 km²) と、国土面積の 66% を開発していながら、雨季の洪水、乾季の干魃、低い農業技術レベル等により、農業生産性は著しく低く、農業生産増大のためには、農業基盤整備を含む農業技術の改善により、生産性の向上を図る以外にはないと考えられている。このため、同国は独立以来農業技術の研究、開発、普及及び農業技術者の教育と養成に重点をおいた政策を推進してきた。その一環として、ダッカにある農業省管轄の Bangladesh 農業カレッジ (BAC) をダッカ近郊のジョイデプールに移転新築し、Bangladesh 農業科学カレッジ (BCAS) として、拡大整備し、従来の理論偏重の農業教育から、現場技術に、より重点を置いた実践的な農業高等教育を行うことを計画して、我が国にこのカレッジの建物の新設と、建物完成後の運営に係る協力を要請してきた。

これを受けて我が国政府は、昭和 56 年度に約 20 億円の無償資金協力を供与し、建物建設に着手、昭和 58 年 3 月末に施設は完成された。

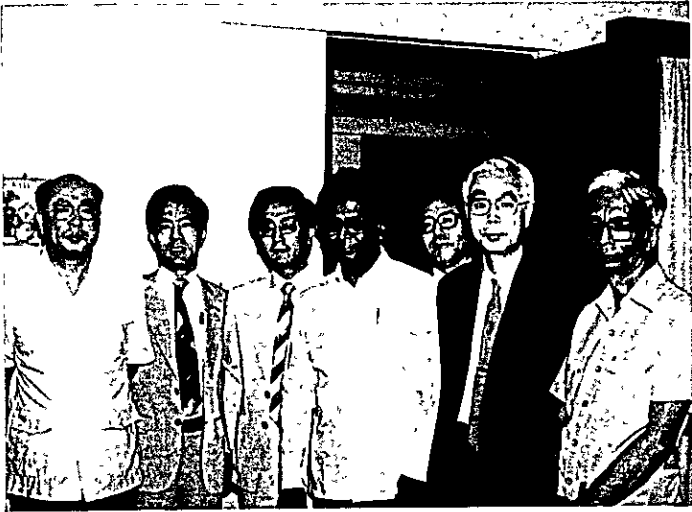
一方、同カレッジの運営に係るプロジェクト方式技術協力については、昭和 54 年の要請時点とは、Bangladesh 政府の考え方がかなり変化していることが予測されたので、これらの点を勘案して、日本政府は Bangladesh 側の基本的な考え方、方針、計画等を確認することに重点を置いた調査を行うため、昭和 58 年 3 月 31 日から 15 日間、九州大学農学部教授土屋圭造氏を団長とする 5 名の事前調査団を派遣した。

この報告書は、事前調査結果をとりまとめたものである。本報告書が、プロジェクト協力の今後のすすめ方について参考になれば幸いである。おわりに本件事前調査実施に当って御協力いただいた、外務省、文部省関係者及び九州大学並びに Bangladesh 政府関係者諸氏に対し、深甚なる謝意を表すものである。

昭和 58 年 4 月

国際協力事業団

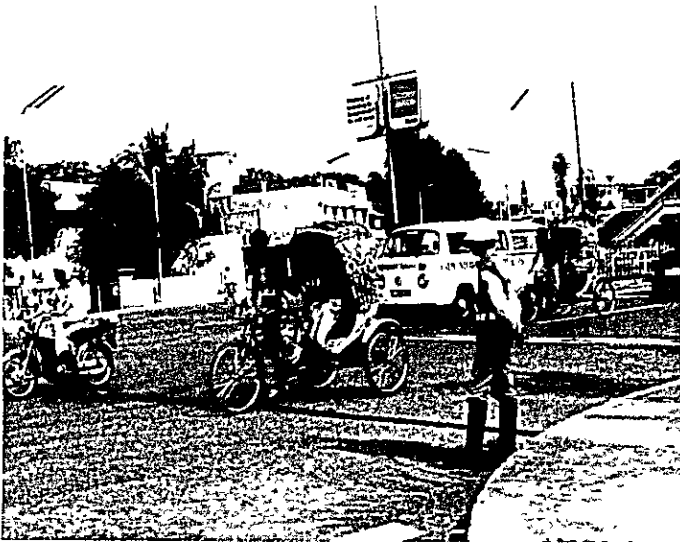
理事 松山良三



農業大臣室にて 農業大臣（中央） BARI局長（向って右端）



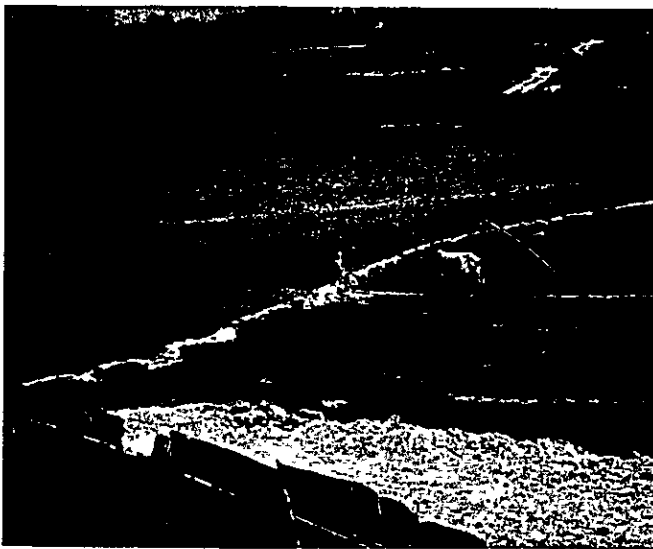
ダッカ市



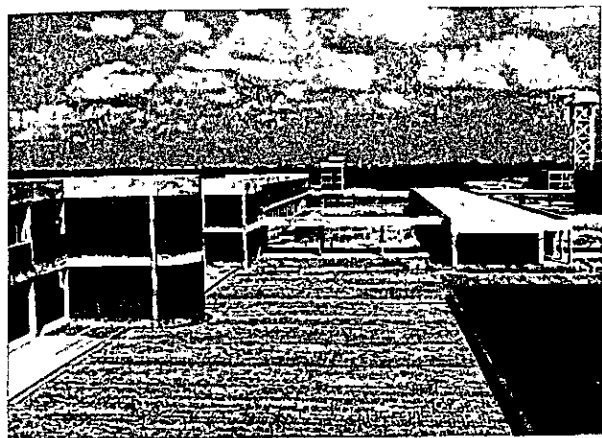
ダッカ市



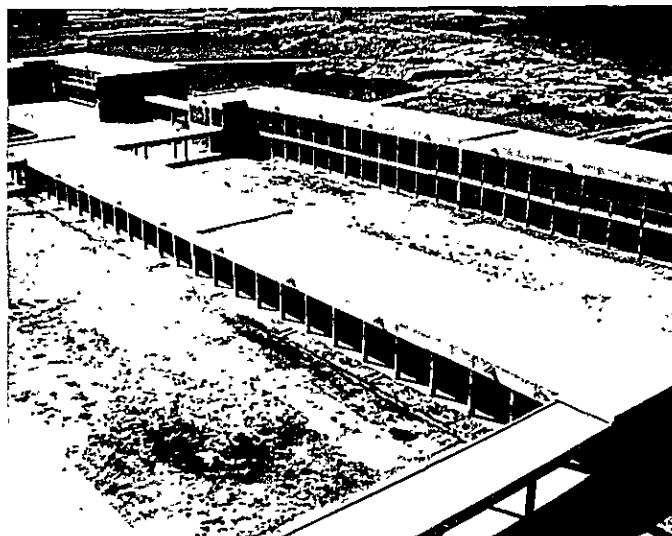
農村の魚とり
風景（ジョイデプール近郊）



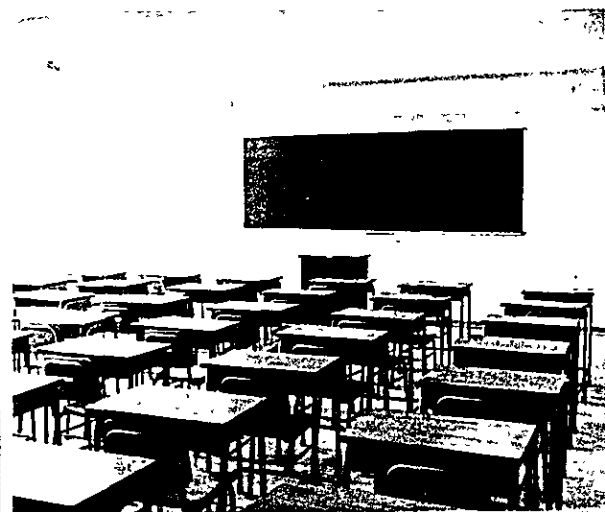
College Building 北側
の田圃（民有地）



手前左、Functional Building 渡り廊下で連結されている建物はCollege Building。右手に、水タンクがあり、水タンクの向うにHostel Buildingがみえる。中央College Buildingの向うにC-type Housingが見える。



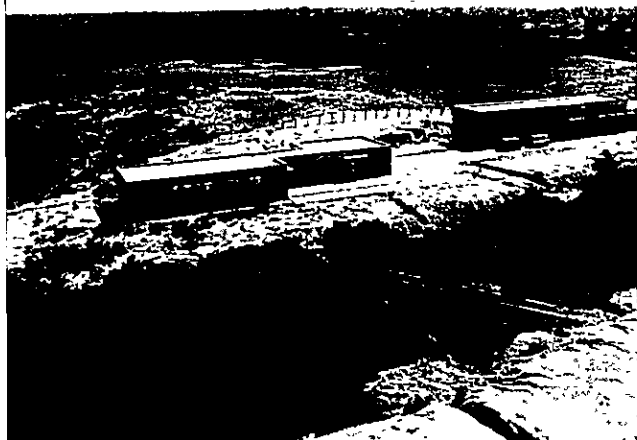
手前：College Bldg. 左上：Functional Bldg.



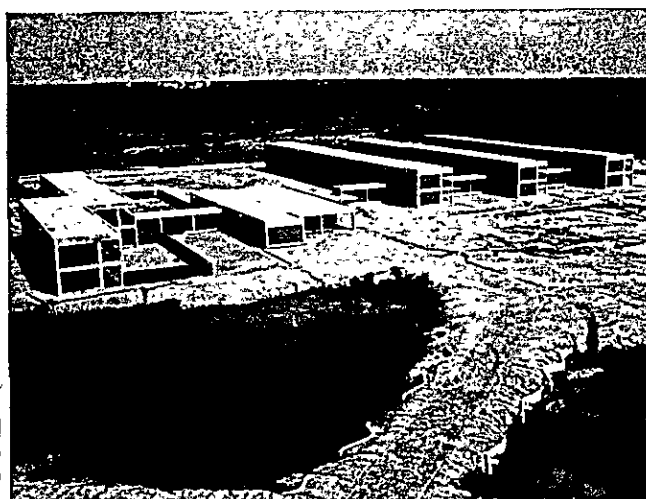
講義室



実験室



左側：Community Bldg. 右側：Workshop.



Hostel Bldg. で中央の1階建物が食堂

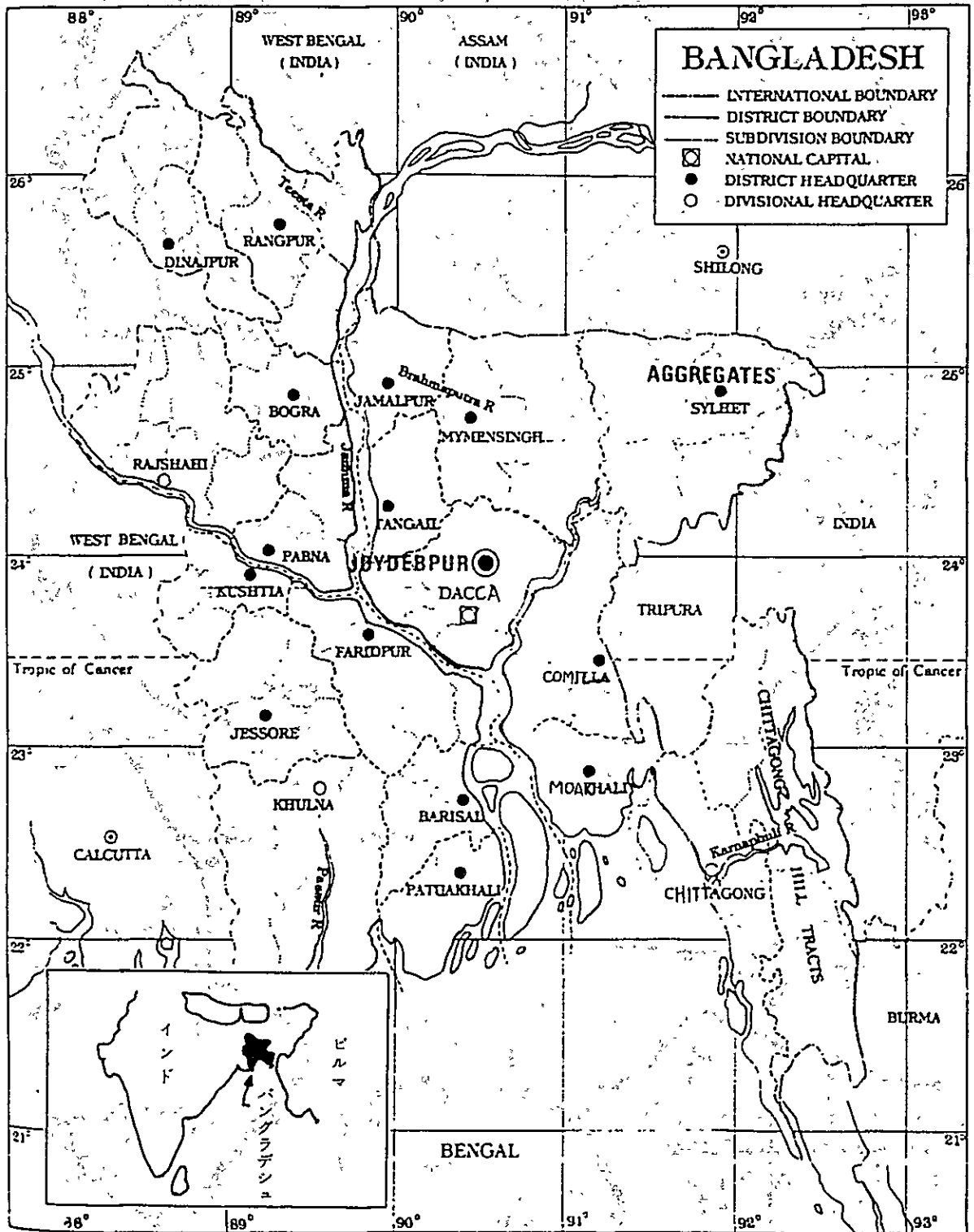
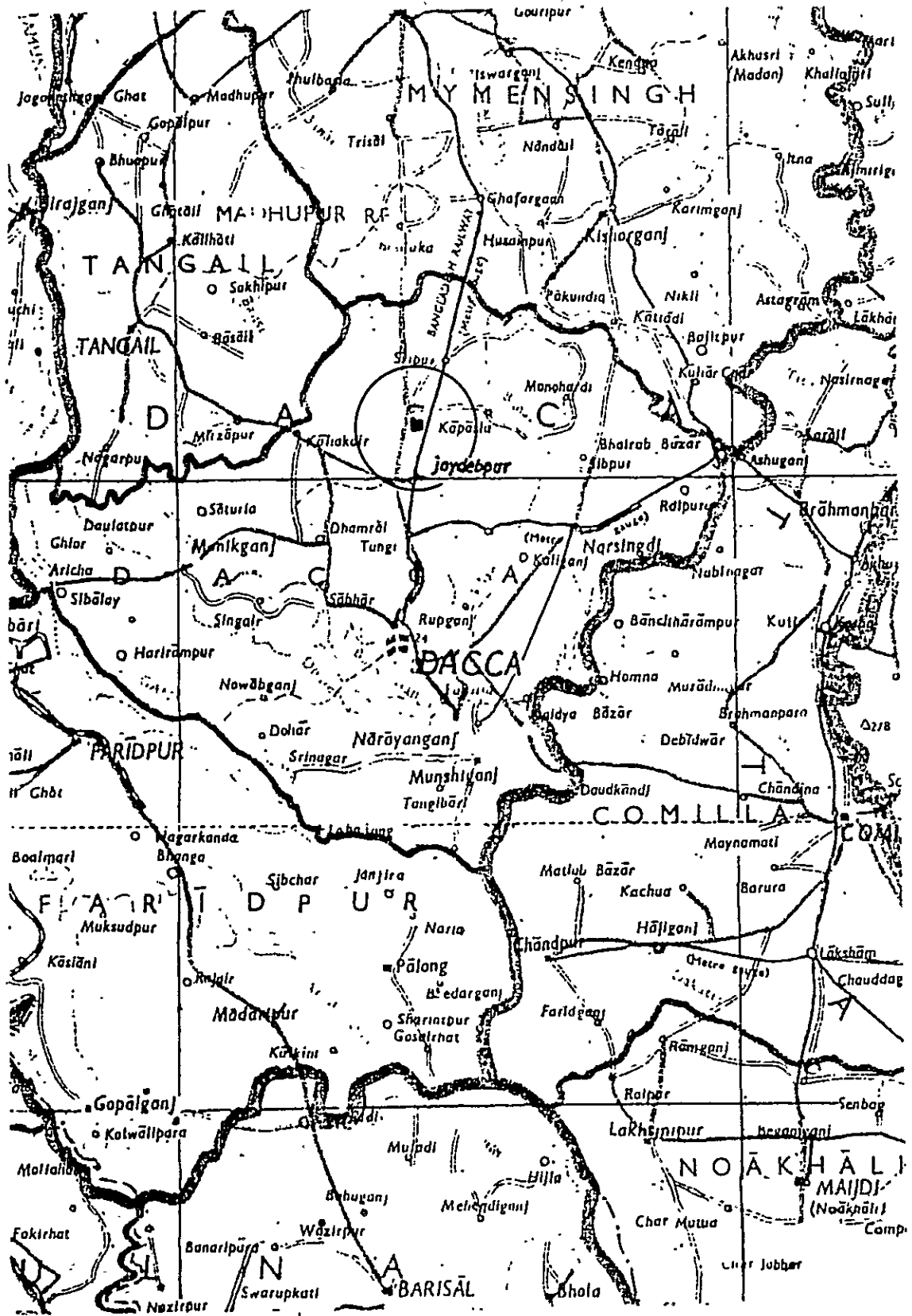
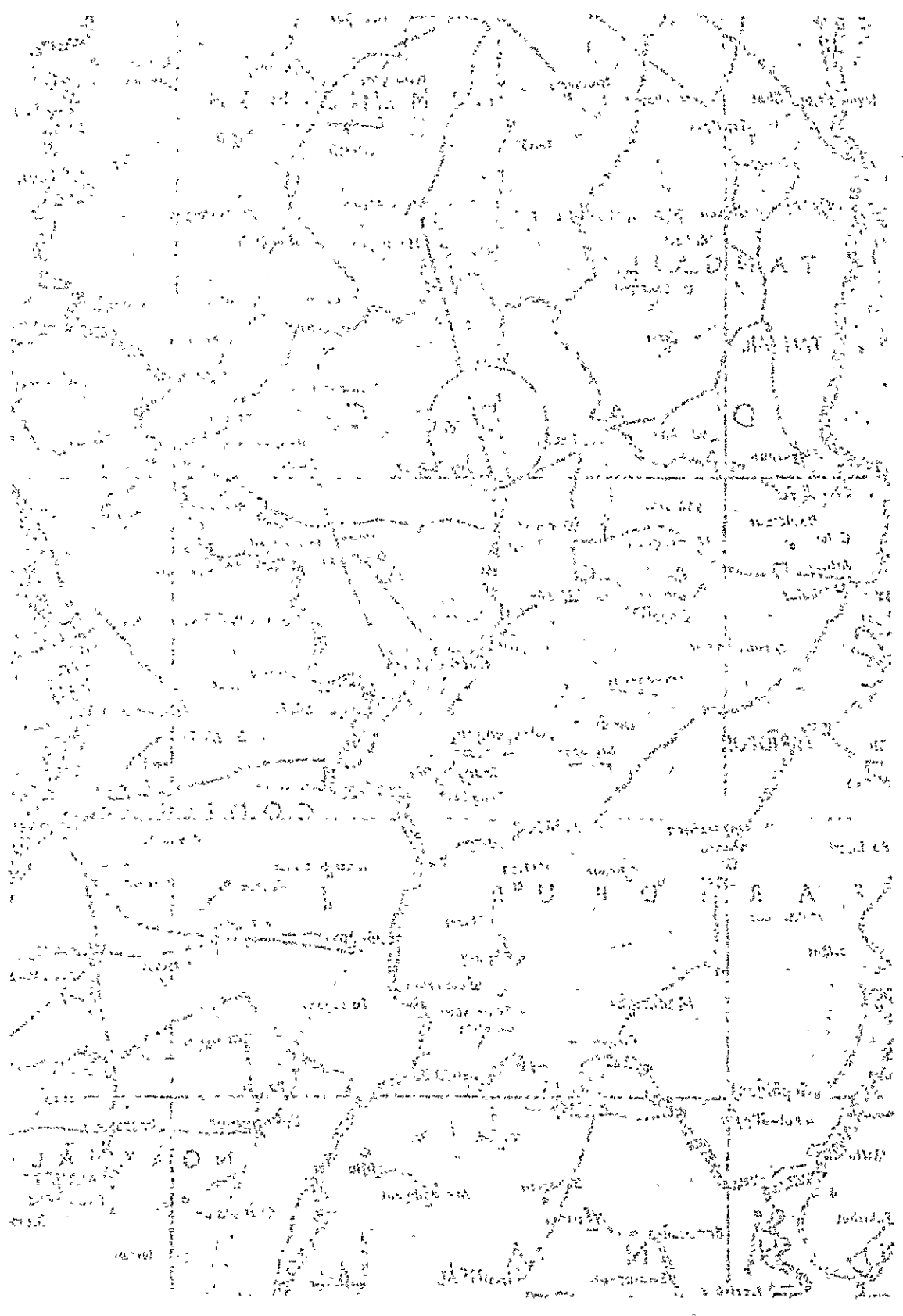




図2 BCASのサイト





略 語 解 等

- BARI : Bangladesh Agricultural Research Institute.
BRRI : Bangladesh Rice Research Institute.
BARC : Bangladesh Agricultural Research Council.
CERDI : Central Extension Resources Development Institute.
BAU : Bangladesh Agriculture University. (マイメンシン)
BAC : Bangladesh Agriculture College. (ダッカ)
BCAS : Bangladesh College of Agricultural Sciences. (ジョイデプール)
TAKA タカ : バングラデシュの貨幣単位 1US\$ = 24.17タカ (58年4月)
1US\$ = 242円 (")
LAK ラーク : 100,000の単位を示す。

目 次

| | |
|--|-----|
| 1. プロジェクトの背景と経緯 | 1 |
| 2. 調査の目的 | 2 |
| 3. 調査団の構成と日程 | 3 |
| 4. 調査結果の要約 | 10 |
| 5. 協議の経過等 | 14 |
| 6. 農林省及びBCAS（ Bangladesh Agricultural University ）の 機構並びにBCASの施設の現状 | 32 |
| 7. BCAS設立・運営のための Bangladesh 政府の予算準備 | 38 |
| 8. Bangladesh の教育システム | 40 |
| 9. Bangladesh の既存大学の状況 | 54 |
| 10. 資料 | 66 |
| 10-1 調査チームのとり交わしたミニツ | 66 |
| 10-2 Bangladesh の教育原則と運営にかゝる「バ」政府の新提案 | 82 |
| 10-3 BCASに我が国が無償資金協力で供与を計画した機材、機器、家具の一覧 | 88 |
| 10-4 BRRIについての英文抜すい | 97 |
| 10-5 Bangladesh 主要穀物及びジュート・茶の年次別生産量等 | 105 |
| 10-6 Bangladesh の年次別主要品目の輸出入等 | 106 |
| 10-7 Post Graduate Studies Committee | 107 |

1. プロジェクトの背景と経緯

バングラデシュの農業は国民総生産（GDP）の約50%を占め、労働人口の約70%を吸収しているが、同国労働人口の28～30%をしめる失業者又は半失業者の95%が農村部に滞留していると見られている。

又、農業部門では、米を中心とする穀類生産が1974年以来順調な伸びを示してきた。

（資料10-5）殊に、米については、米作地が、全国作付延面積約3千万ヘクタール（約1,200万ヘクタール）の約80%を占め、これまで面積の伸びよりも、単位生産量の増加により漸増してきたものであるが、それも近年伸びなやみの状況である。そのため国民食糧の自給達成には、未だ、至っておらず、年により異なるも、毎年かなりの小麦及び米の輸入を行っている。

（資料10-6）

一方、同国の人口8,850万人（1980年）は、年率約3%で増加していると推定され、食糧増産の伸びなやみは、同国発展の大きな障害となるので、食糧増産は同国政策の最大の課題となっている。

又、シュート栽培は、同国シュート産業にとっても重要な原料生産であり、シュート製品等の輸出のみで、同国総輸出額の73%（茶を加えると80%、1980/81）を占める。以上の事実からしても、農業振興及び農業開発は同国にとって最も重要な政策となっている。

然しながら、同国の農業技術レベルは、一般的に低いので、農業技術向上のための、農業試験研究、農業技術普及、農業教育事業が極めて重視されてきている。

この様な背景のもとに、同国政府は、農業技術者の教育養成の一貫として、農業高等教育機関の整備に努めてきた。現在同国には農業高等教育の独立機関として、マイメンシンの農業大学（BAU）及び、ダッカの農業カレッジ（BAC）があるが、ダッカ市にある農業カレッジでは、近年、市街地の膨脹に伴い、敷地が蚕食され、農場用地等が狭小となり、農業教育に適しなくなったため、ダッカ市の北方約30kmにあるジョイデプールに移転することとした。このジョイデプールには現在、農業省の稲作研究所（BRRI）、農業研究所（BARI）、中央農業普及技術開発研究所（CERDI）等の研究・普及機関が集中しているので、これらの機関との有機的連携を保ちつつ、現場実習に重点を置いた、充実した農業分野における大学教育を行うことを計画し、我が国に対し、ダッカの農業カレッジのジョイデプールへの移転建設及び建物建設後の大学運営（バングラデシュ農業科学カレッジ…BCAS）にかゝる技術協力を要請してきたものである。

我が国政府は、これに対し、大学施設の建設については、先ず、無償資金協力で対応すること

とし、昭和54年9月に、無償資金協力のためのコンタクト・ミッション、翌55年8月に事前調査団、更に昭和56年1月に基本設計調査団を派遣し、施設建設に必要な設計等を行った。その結果、建物は供与資機材を含め20億円で建設協力することとなり57年1月に着工され、58年3月31日に完成をみた。一方「バ」国政府の同大学運営にかゝる技術協力要請に応じて、我が国政府は協力要請内容及び相手政府の準備状況等を把握して、プロジェクト方式技術協力の可能性を検討するため、昭和58年3月末日から15日間、「バ」国に事前調査団を派遣した。

2. 調査の目的

既述のように、無償資金協力による建物建設は、昭和57年1月から開始されたが、本件カレッジにかゝるプロジェクト協力については昭和56年に、大学建物完成前に大学運営並びに教育カリキュラム作成の専門家を早急に派遣してもらいたい旨の要請もあった。その後57年3月公信では、大学の中に、大学院を併設する「バ」国政府の意向も明らかとなった。又、農林省所管のまま、当面はマイメンシンの農業大学と affiliation の関係をもち後に独立すること、日本に対する協力要請の分野は栽培と植物生理に限定しようとしていること。又、ダッカのBAIはそのまゝ残そうとしていることなども判明した。このように、「バ」政府の考えは当初のBACの移転の構想とは、かなりかけはなれたものとなっており、日本政府としても直ちに対応するには、種々疑問の点が多いので、これらの疑問点を明らかにするため、相手側の考え方と実状の把握を中心としたコンタクト的調査を行うこととし、その調査のポイントは主に、次の諸点を明確にすることであった。

1. 大学設立構想
2. 大学運営計画
3. 相手側の準備状況（建物建設を含め）
4. 関係機関、関係大学との相互関連及び理解
5. 日本に対する技術協力要請内容とその背景

3. 調査団構成と日程

3-1 団員構成

- 1) 団 長 土 屋 圭 造 九州大学農学部教授
- 2) 農業教育 脇 本 哲 九州大学農学部教授
- 3) 協力企画 矢加部 英 敏 九州大学庶務部国際主幹
- 4) 協力政策 吉 村 保 雄 外務省経済協力局技術協力第2課
- 5) 業務調整 官 下 信 夫 JICA農林水産計画調査部農林水産技術課

3-2 日 程

| 月日 | 曜日 | 訪 問 先 | 面 会 者 氏 名 等 |
|------|----|--|--|
| 3/31 | 木 | 12:25 東京発 (JL465) 17:10 バンコック着 | |
| 4/1 | 金 | 11:00 バンコック発 (TG321) 12:20 ダッカ着 | 打ち合せ会議 (ホテル) シオナルガオン 大使館 新野一等書記官、佐藤書記官 JICA事務所 村越所長 山下設計 田中氏、三井建設 直江氏 |
| 2 | 土 | 9:00 ホテル出発 9:50 ジョイデプールサイト着 Bangladesh College of Agricultural Sciencis サイト視察 | 同行者 大使館 新野兼司一等書記官、 佐藤三郎書記官 山下設計 田中氏 三井建設 直江氏 |
| 3 | 日 | 13:00 サイト発 14:00 ダッカ着 10:00 BARI, Dhaka 表敬協議 13:30 ホテル発 14:20 ジョイデプール着 果樹園芸種子研究センター | Dr.K.M. Badruddoza Director, BARI Dr. Ayubur Rahman Associate Director, BARI Dr.A.K.M. Amzad Hossain Project incharge of technical cooperation on the Citrus and Vegetable Seed Research Center. BARI, Joydebpur. 大使館 新野一等書記官、佐藤書記官 J.I.C.A 村越所長同席 同行者 大使館・佐藤書記官及び Dr.A.K.M. Amzad Hossain (前出) Mr. Abdur Razzake Principal Scientific Officer (PSO) A.M. Abdullar P.S.O. |

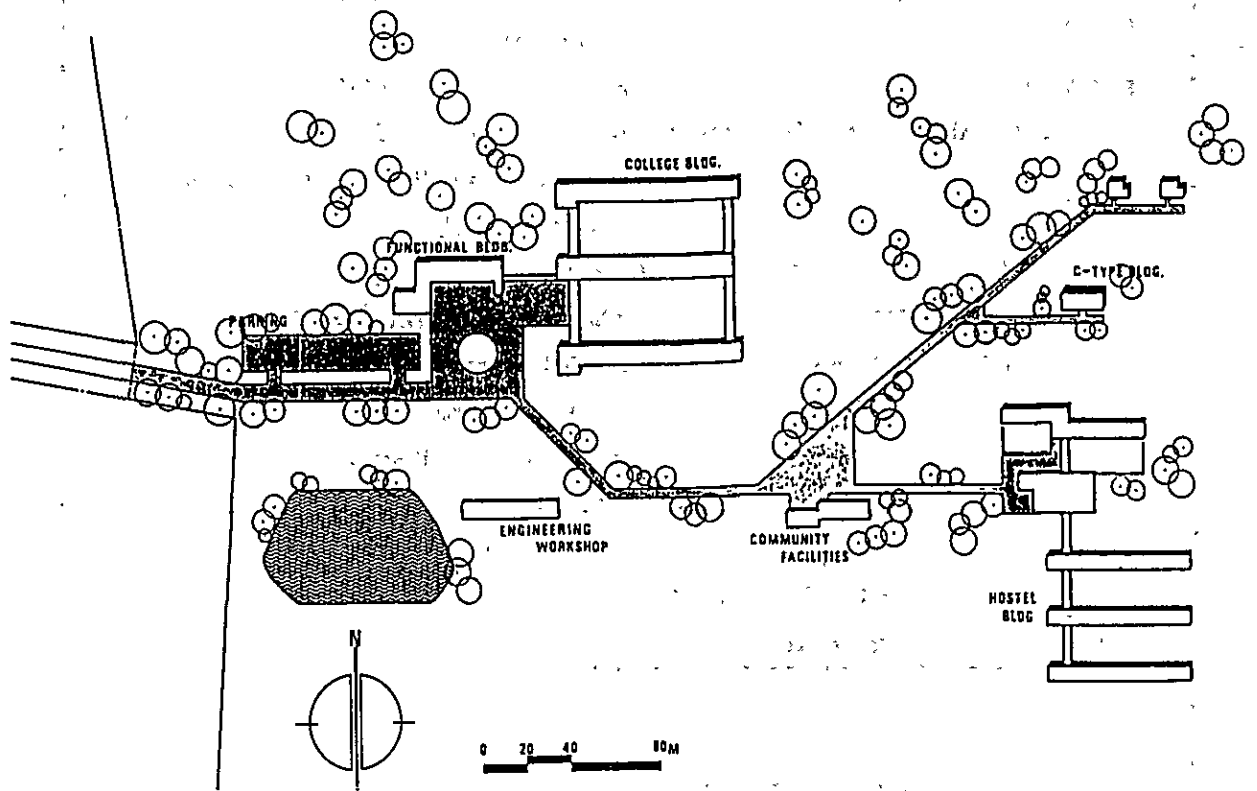
| 月日 | 曜日 | 訪 問 先 | 面 会 者 氏 名 等 |
|-----|----|--------------------------------------|---|
| 4/3 | 日 | | M.D. Ashraf Khan Senior Scientific Officer (SSO) M.D. Altaf Hossain Scientific Officer (SO) M.D. Abdul Hoque SO 日本人専門家(リーダー)坂井弘、河野真典、田崎正光、岩垣功、(業務調整)中川隆志 |
| | | 15:00 BARI | Mr. Masharaf Hussain Associate Director, Administration & Support Service Mr.H. Rahman Project Director (on farm trial) Dr.S.H. Khan Head, Plant Breeding Div. Mr. Khabque Project Director (oil seeds) Mr. Osiqul Huq Head (in charge) plant Pathology Div., |
| | | 16:00 CERDI | Mr. Zahir Head (in charge) Agronomy Div., Mr. Faizur Rahman Chudhury, Principal Farm Mechnigation Specialist, Mr. Nasir Uddin Ahmed, Principal Agromist A.K.M. Giasuddin Milki, Principal Information Specialist |
| | | 16:30 BRRI | 日本人専門家リーダー佐藤隆、井上正敏、増見国弘 Dr. Siddique Ahmed, Associate Director |
| | | 17:20 ジョイデプール発ダッカへ | |
| | | 18:10 大使館表敬 | 大塚博比古大使、大久保基参事官、新野一等書記官、佐藤書記官 |
| | | 20:00 JICA園芸チーム専門家連絡所 | 日本人専門家懇談会(前出園芸チーム諸氏)及び大使館佐藤書記官 |
| 4 | 月 | 10:00 大蔵企画省 ERD | Mr.M. Khaled Shams, Joint Secretary |
| | | 11:00 " Planning Commission | Dr.A.H.M. Altaf Ali, Chief Agriculture Section, (元東大留学生) |
| | | 12:30 Bangladesh Agriculture College | Mr. Masharaf Hossain, Principal (in charge) (前出) 同行者 大使館新野一等書記官、佐藤書記官 Dr. Ayubur Rahman (前出) |
| | | 15:00~17:00 ホテルにてBAI等事情聴取 | Dr. Kaji Associate Director 他1名(元九大留学生) |
| | | 19:30 レセプション出席 | Dr.K.M. Badruddoza Director BARIによる。 (Hotel Zakariya) |

| 月日 | 曜日 | 訪 問 先 | 面 会 者 氏 名 等 |
|-----|----|--|---|
| 4/5 | 火 | 9:00 農業省 | Mr. A.M. Anisuzzaman Secretary, Agriculture & Forestry Div., Ministry of Agriculture. |
| | | 10:00 | Mr. Ubaidler Kahn. Minister of Agriculture. |
| | | 10:30 統計局 | 資料収集 |
| | | 11:30 JICA事務所 | 以上同行 大使館新野書記官、佐藤書記官 Mr. A.K.M. Amzad Hossain (前出) 他1名 (スケジュール打ち合せ及び今後の対応協議) 村越所長、大使館佐藤書記官 |
| | | 14:30 Hotel 帰着 | |
| | | 16:30~19:00 | 団内打ち合せ |
| | | 19:00~21:00 | CERDI 佐藤、井上専門家と懇談 |
| 6 | 木 | 10:00~18:00 JICA事務所 | 協議 Dr. Ayubur Rahman (前出)、 Mr. A.K.M. Amzad Hossain (前出) 大使館佐藤書記官、JICA村越所長 |
| | | 19:00 大使公邸レゼプション出席 | 大使、新野及び佐藤書記官 他2名 Dr. A.H.M. Altaf Ali (前出) |
| 7 | 金 | 8:30 ホテル出発 | Dr. A.H.M. Amzad Hossoin (前出) 他に BARI Staff 同行 |
| | | 11:30 Jute Research Sub-Station | Mr. Mozilur Rahman (Staff) |
| | | 12:00 Regional Station in Comilla | M.A. Mazid Miah M.A. Motalib Bhvion M.V. Abani |
| | | 12:30 Bangladesh Academy for Rural Development Comilla | Dr. A.M. Akhanda Deputy Director (BARD) 他4名 |
| | | 20:30 ホテル帰着 | |
| 8 | 土 | 10:00 ホテル発 Jahangir-Nagar Univ | Dr. Kaji (BARI) 他1名同行 |
| | | 15:30 ホテル帰着 | |
| | | 15:30 ホテルにて教育事情聴取 | Dr. Ziauddin Ahmad (元九大留学生) Chairman of Soil Science Dept. Faculty of Biological Sciences, Dhaka University. |
| | | 17:00 | 国内打ち合せ |

| 月日 | 曜日 | 訪 問 先 | 面 会 者 氏 名 等 |
|-----|----|---------------------------------|---|
| 4/9 | 土 | 12:00 ホテルにてマイメンシン農業大学情 況聴取 | Dr. Abdullh Al Mamun (元名大留学生) Assitant Professor. Dept of Agronomy, Bangladesh Agriculture University (BAU) |
| | | 14:00 ホテルにて、BARIの技術協力 対応状況聴取 | Dr. Abdul Halim Director, Graduate Training Institute BAU. 坂井チーム・リーダー |
| | | 15:30 ダッカ大学 | Dr. Ziauddin Ahmad から大学状況聴取 |
| | | 18:00 Dr. Kaji 宅にて | BARI及びマイメンシン大学等の関係聴取 |
| 10 | 日 | 9:00 団内打合せ | |
| | | 11:00 BARI (ジョイデブール) | Dr. Golan Ali Fakir Associate Professor -BAU. 他1名 Dr. Ayubur Rahman (前出) Dr. A.K.M. Amzad Hossain (前出)他1名 佐藤書記官 (大使館) 同行 |
| | | 18:00 ホテル帰着 | |
| | | 20:00 団内打合せ | |
| 11 | 月 | 9:00 団内打合せ | |
| | | 12:00 ホテルの会議室にて協議 | Dr. Ayubur Rahman (前出) Dr. A.K.M. Amzad Hossain (前出)他1名 新野及び佐藤書記官 |
| | | 16:00 BARCにて協議 | Dr.K.M. Badruddoza Director BARI (前出) Dr.A.H.M. Altaf Ali, (前出) Dr. Ayubur Rahman (前出) Dr. A.K.M. Amzad Hossain (前出)他1名 新野及び佐藤書記官 村越 JICA 事務所 所長 |
| | | 17:30 チーム招待レセプション | Dr.K.M. Badruddoza (前出) Dr.A.H.M. Altaf Ali (前出)外バングラデシュ側6名 新野、佐藤書記官、佐藤 CERDI リーダー、村越所長 |
| | | 10:30 ホテルにて団内打合せ | |
| 12 | 火 | 10:00 文部省 | Mr. Aminulislam Joint Secretary of Ministry of Education |

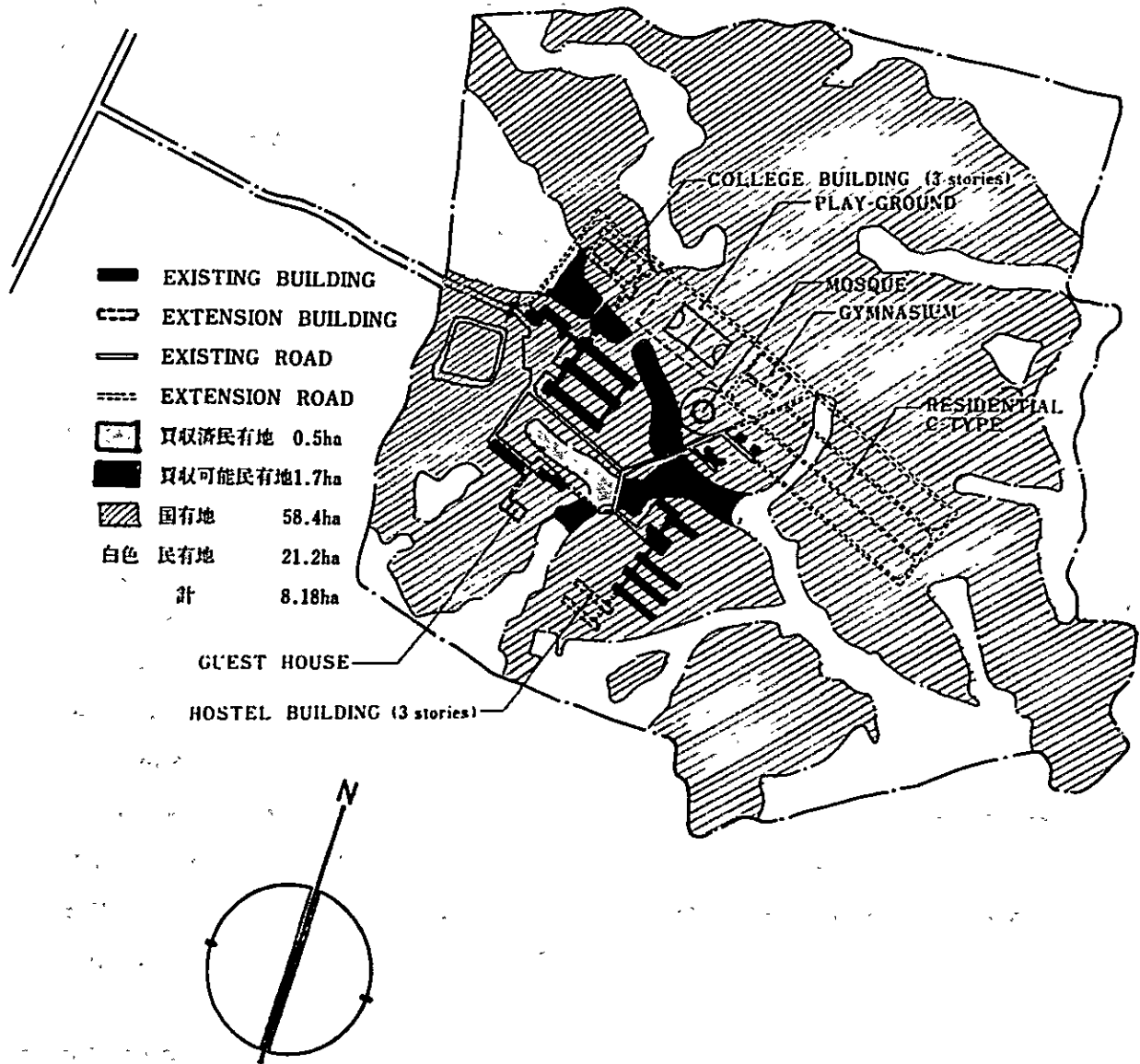
| 月日 | 曜日 | 訪 問 先 | 面 会 者 氏 名 等 |
|------|----|--|---|
| 4/12 | 火 | <p>11:00 BARI ダッカ事務所 (ミニツ検討)</p> <p>16:00 大使館 (報告)</p> <p>17:00 BARCにて Minuts 署名</p> | <p>Mr. Mohammad Abodul Jabbar Chief Statistic Div., Bangladesh Bureau of Educational information and Statistics. Ministry of Education</p> <p>佐藤書記官同行 (脇本、矢加部団員)</p> <p>Dr. Ayubur Rahman (前出)</p> <p>Dr. A. K. M. Amzad Hossain (前出) 他1名</p> <p>村越 JICA 事務所 所長 同席 (土屋リーダー、吉村、宮下団員)</p> <p>大塚大使、久保田参事官、新野書記官</p> <p>Dr. K. M. Badruddoza (前出)</p> <p>Dr. Ayubur Rahman (前出)</p> <p>Dr. A. K. M. Amzad Hossain (前出) 他1名</p> <p>新野書記官</p> <p>村越 JICA 事務所 所長</p> |
| 13 | 水 | 11:45 ダッカ発 (BG070) パンコック着 | |
| 14 | 木 | パンコック発 東京着 | |

図3. 我が国の協力により完成した施設



..... 我が国の協力により建完了した建物(58年4月1日)

BANGLADESH COLLEGE OF AGRICULTURAL SCIENCES



SITE PLAN

SCALE 1:4,000

4. 調査結果の要約

調査団は、バングラデシュ到着後、バングラデシュ側と真剣な討論を繰返し、また独自の調査研究も行った。これらの調査結果は相互に確認しあいMinutes（資料10-1）を作成した。Minutes作成の経緯及び調査の結果は、5以降に精しく述べるので本節では調査結果の要約をしてみたい。

(1) BCASの管理運営

① 教授陣

教授陣は、専任教官と兼任教官にわけて採用する予定である。計画では、発足当初はBARIとBRRI (Bangladesh Rice Research Institute) の博士号を有する研究者を教授とし兼任する予定で、該当者は現在BARI及びBRRIに合計60人存在する。専任教官としては、1983-1986年の間に準教授12名、助教授15名、講師16名採用の予定である。

現在のスタッフは学長代行としてDr. A.K.M. Amzad Hossain が任命されている。

② カリキュラム

BCASは1983年の秋から開学の予定である。1983年4月現在既に建物が完成しているが、BCASの管理運営については殆んど準備がなされていなかった。カリキュラムも例外ではなく全く作成されていなかった。当初はBAUのカリキュラムをそのまま用いる予定である。

③ 管理機構

BCASは、BACと同じくBARIの傘下にぞくするBARIは農林省直属の研究機関である。ちなみにBACの入学試験は独立に行うが、カリキュラムはBAUと同じものを使用し、学期末試験は同日に行っており、BAUのAffiliationの関係にある。BCASの運営にもこの方式を利用しようとしている。

(2) 学生の入学

① 年次計画

学生の入学は、BARIに設けられているPost Graduate Studies Committee が既に40名の大学院学生の入学を許可しており、これらの学生はBCASに移籍されBCAS大学院の第1期生となる。学部学生の入学許可は1983年7月頃、高校卒業認定試験 (Higher Secondary Certificate Examination) 結果の公表後決定する入学予定の学生数はミニツ (資料10-1) のAnnexure-A に示すように1983年度、学部学生50

名、大学院学生40名の合計90名であり、1986年度には大学院学生120名、学部学生240名の合計360名に達する見込である。

(3) 施設

1983年4月2日、完成した施設は日本側からバングラデシュ側に引きわたされた。その時のBCASの施設としては職員宿舎、フェンス、農場や農舎等は未整備の状態にあり、職員宿舎として完成しているのは学長及び事務長官舎2棟(2家族分)、職員宿舎1棟(6家族分)のみである。

(4) 日本に対する協力要請

バングラデシュが日本に対して技術協力を要請してきた、①施設、②教官の研修、③日本よりの専門家派遣、④設備等の要請内容及び問題点について次に述べる。

① 施設

バングラデシュは、未整備の職員・学生の宿舎、農舎、圃場整備、農場、フェンス等は年次計画にもとづき整備される予定ですか、宿舎の建設には多額の資金がかかるため、協力の要請があった。

率直に言って日本の援助なしでは職員宿舎の建設はおぼつかない。学生宿舎の例もあり、なぜこのような中途半端な援助が行われてきたのか。日本の援助の仕方にも問題がありそうである。

職員宿舎の建設協力については、種々の制約があるにしても、バングラデシュ政府の財政状況、人造り協力と言う面からも、本件については、特に日本政府も再検討する必要があるかと思われる。

② 教官の研修

バングラデシュ側はBCASの教官に対してPhDやMasterの学位取得のための日本での上級研修の機会を強く要望した。これに関連してバングラデシュ側はBCASと日本の大学とのBilateral Agreementも強く要望した。そのため長時間をかけて可能性を検討したが現状ではBCASと日本の大学にはそれぞれ問題点があり、直ちにBilateral Agreementを結ぶことは不可能であるとの結論に達した。

③ 日本よりの専門家派遣要請

バングラデシュ側は日本からの専門家派遣を優先順位をつけて要請した。バングラデシュ側が最初に希望している専門家はプロジェクトの実施や評価、監督の担当者であり、いわばプロジェクトのマネージャーで、BCASの創設業務にたずさわる大切な専門家であるが、日本ではこの適格者は極めて少数であると思われる。

第2の順位で要請されているのは農場の整備、管理、農業機械の専門家である。総じて専門家の要請順位は、(a)プロジェクト・マネージャー、(b)農業土木・農業機械、(c)作物栽培、(d)園芸、(e)農業改良普及、(f)植物栄養、(g)生物統計、コンピューター、(h)酪農である。また Counter part はそれぞれの分野の研究室長が予定されている。

④ 設備、機械、実験用化学薬品類に対する要請は多岐にわたっている。(Minutes (資料10-1))を参照)

パングラデシュの財政状態では外国からの援助なくしては、これらの資材を整備することは無理である。できる限りの援助が望ましいが、無償による供与機材との関係を検討する必要がある。なお、問題は従来それらの資材が後のBACに述べられているように必ずしも効率よく使用されていないことである。

(5) 協力の問題点

以上調査結果について述べてきたが、最後に協力の問題点について述べてみよう。

① パングラデシュで、海外からの援助物資にも関税がかかる制度になっている。BCASに対して日本からの総額20億円に達する援助物資についても5億円の関税をBARIが払わなければならなかった。5億円はBARIの全予算の5.0%にも達する巨額である。これは財政難のため、他の部門に廻すべき予算を流用している(ダッカのBAC予算は1981/82は非常に苦しかったと聞いている。)ともいわれている。これでは技術協力の協力に問題がおきそうである。

今後も技術協力は続くと思われるが、資金難のために、他にBARIのプロジェクトが新たに始められた場合に、BCASの予算が一時的に流用されてしまうことも予想され、非常に危惧される。

② BACとBCASの総合問題は1981年10月のProforma for Project Evaluationに述べられているBCAS創設プロジェクトのうち、最も変わった点はBACのBCASへの移転統合問題である。農林省の傘下に3つの農業大学(BCAS、BAC、BAU)を持つことはパングラデシュの財政状態では難しいと誰しも危惧の念をいだく。しかしパングラデシュ側には統合計画を破棄してBCASをBACとは独立な大学として創設する計画であるとも聞いた。これは調査団にとっては大問題である。討論の経緯については5の調査結果にゆずるか、結論としては「統合問題の結論はつけていない」ということである。統合問題の趨勢によって日本の技術協力のあり方も異なってくる。パングラデシュ側に一刻も早く統合問題を明確に解決することを要望したい。

③ 市ガスの供給
BACSには市ガスが供給されていない。プロパンガスは生産されていない。アセチレンガスを用いざるを得ない。実験には市ガスの供給は必要不可欠であるが、現状では3.15マイルの長距離の配管が必要であり、その実現にはかなり長年月が必要とされそうである。一刻も早く市ガスのBCASへの供給が要望される。

④ 大学教授の任命
このカレッジの主任教授は、BARI及びBRRの staff をパートタイム利用するのではなく、むしろ専任教授として、優秀な人材を採用すべきであろう。パートタイマーは、講師クラスに止めさせることとし、BARI及びBRRの staff の格好のアルバイト先。本学がならないように歯止めをかけねばならない。本学の農業高等教育の成果が上がるよう、大学教育の専門家によって指導されねばならない。

⑤ カリキュラム
大学の農業教育は、従来の同国の農業高等教育が、試験、実験、実技と理論の両輪の上に立たず、むしろ理論に偏しているため、卒業生が現場の実際問題に対応でき難い点があるので、これを改善した形の教育を行いたい希望である。これに対応したカリキュラムを組むための協力を行うこともなるが、問題は、学生の卒業試験がBAUのカリキュラムに沿った試験になっているので、BAUのカリキュラムをカバーしたカリキュラムを作成しなければならない。

⑥ 大学の学生宿舍及び職員宿舍
日本の協力では、学生宿舍は300人対象、職員宿舍は、僅かに8戸分しか建設されなかった。先ず学生寮については、教室に対応した600人収容のものでなければ、大学運営の効率面、又、ダッカのBACを移転したくとも移転できない(BACの学生数400人)等の点、又、BACよりも学生数が少ない等から逆に予算面でBACより苦しい立場に置かれそうである。職員もダッカからの通勤では、同国の通勤事情からすると異常なものであり、大学教育に果して教育 staff が、情熱をもって、教育に従事できる環境であるが疑問に思われる。したがって早い機会に、学生宿舍及び職員宿舍を何らかの形で日本、政府により建設協力がなされることを希望する。

⑦ 機材関係
無償資金協力基本設計の時点では、カリキュラムが不明であったので、今後実際に試験、研究を行う場合、無償による供与機材では分野によっては試験機材等に不足が生じることもあると考えられるので、プロジェクト技術協力をすすめる場合には、機材の供与も計画に見込む必要がある。要請された機材についてはミニツの資料1.0-1を参照されたい。

⑧ カウンターパート研修

本学の教育 staff の日本研修は、博士号取得するまで行ってもらいたいとの意向が非常に強かった。これは、BAU が米国の協力を得ていた時代に米国の学位取得研修が盛んに行われたので、この轍を日本でも踏んでもらいたいとのことである。現在の我が国の技術協力システムでは対応できないので、この希望は実現できないが、我が国の教育協力の今後の問題として検討してもらいたいものである。

⑨ 図書の整備

一般の大学予算は著しく小さい。このため、大学では、図書の購入は殆ど期待できない状況であるので、今後、技術協力を行う場合には、特にこの点に留意する必要がある。

⑩ 農場計画等

農場用地は、現在の大学施設の北側の灌木林が予定されているが、畑、水田の位置、面積、又どのような作物を対象としどのような方法によるどのようなタイプの実験圃場、実習圃場を考えているのか、又、畜産についてはどうするのか等、本学創設の重要なポイントである。農業実習の場が、未だ全く計画されていない。したがって、大学側に、これらについての計画化とその実現について早急に積極的に取り組ませる必要がある。

(6) 今後の技術協力のすゝめ方

協力の基本的な考え方としては、学部学生に対する農業教育に限定するが、それでも同国の実情からして、多数の教育専門家の長期派遣は困難と考えられるので、協力分野を「バ」国農業教育上、最も基本的でかつ欠除若しくは低い分野の 1～2 に絞って実施することであると考えられる。然し、協力を行うに当たっても「バ」側の態勢準備が、今まで遅れていることもあり、次のステップを推進するためには、先ず、BARI は、どのように開学を行い、大学運営を、どのようにすゝめていくのか、教授陣の整備、学生レベルはどうか等、「バ」政府の大学運営の姿勢を見極めた上で、我が国の技術協力についての内容、方法、スケジュール等の詳細計画を策定、調査するため、長期調査員を同国に派遣する必要がある。

5. 協議の経過等

(1) カレッジ建設について

1983年4月1日～13日まで Bangladesh を訪問した。目的はダッカ市郊外の Joydebrur に新設された Bangladesh College of Agricultural Sciences (以下 BCAS と略称する) に対する、日本の技術協力の可能性の調査のためである。

日本の技術協力は、ダッカにある Bangladesh Agricultural College (BACと略称) が都市化により、キャンパス面積、650エーカーが蚕食されて手ぜまになったため、郊外の Joydebpur に移転し、新設の大学に統合して College から Agricultural University に拡大整備するとの要請をうけて約20億円の無償援助がなされた。

工事は三井建設、山下設計事務所が担当し1982年1月より行われたが、電力、水が利用できるようになったのは4月からであった。両社はそれまでの間ジェネレーターを持ち込む等苦労したが、突貫工事の末、1983年3月末に建物が完成し、バングラデシュ側に引きわたされた。4月2日にBCASを視察した時には、バングラデシュ政府の財政難と土地収容上の問題のため、キャンパス予定地の水田は殆んど買収されていなかった。学生寮は学生600名に対し建設したのは、約半分の300名分だけであった。300名の内訳は男子225名女子75名である。学生寮は4名1室である。4名1室にしたのは、人間関係を考えると4人が最適であるというバングラデシュ側の強い要望からであるという。

実験室では6人1組の実験台が整備される予定であったが、実験台は日本から輸送中とのことで実験室は未整備の状態であった。

問題は関税である。バングラデシュ政府は開発途上国にしばしばみられるように、援助物資にも税金をかけている。黒板等はゼロであるが、他の物質には関税がかなり、BARI (Bangladesh Agricultural Research Institute) では平均13%の関税というが、山下設計の話ではBCASの建設については20億円のうち約5億円は関税であるというから

25%になっている。

バングラデシュは世界の最貧国のひとつである。

表1に示したように1980年のバングラデシュの1人当り国民総生産(GNP)は120ドルである。同年の日本は9,890ドル、タイ670ドル、インドネシア470ドル、インド240ドルであるので、日本の1/82はいうに及ばずタイの1/5、インドネシアの1/4、インドの1/2である。問題はこの格差がますます拡大していることである。表1にはGNPと人口の成長率を示してあるが、バングラデシュはGNP 0.8%、人口3.0%の伸び率を示しているので、一人当りの成長率は-2.2%(0.8-3.0)である。ちなみに同年の日本の成長率はGNP 8.1%、人口1.9%であり、一人当り成長率は6.2%である(8.1-1.9=6.2)。

最貧国の実情にふれたが工業製品で生産できるものは殆んどなく、黒板は勿論、机、イスさえも均一な製品を製作する技術がないのには驚かされた。日本の技術指導にて、学生用の机、イスを作っていたが、高さが不揃いで、まだまだ満足すべき状態にはない。

1983年5月4日、NHKテレビは現代史「永田武・南極に立つ」を放映した。第1～3回までの南極観測隊長の永田氏の証言によれば、1956年11月の第1回の南極観測の

表1 Per capita GNP of selected countries

| Country | GNP (US\$ Million) | | GNP Per capita | | Growth rate | |
|--------------------------|--------------------|-----------|----------------|--------|-------------|-----|
| | 1979 | 1980 | 1979 | 1980 | GNP | Pop |
| United States of America | 2,373,800 | 2,582,460 | 10,610 | 11,360 | 2.2 | 0.9 |
| Japan | 1,010,070 | 1,152,910 | 8,730 | 9,890 | 3.9 | 1.2 |
| Korea, Rep. of | 56,970 | 58,580 | 1,510 | 1,520 | 8.1 | 1.9 |
| Malaysia | 19,030 | 22,410 | 1,450 | 1,670 | 5.4 | 2.3 |
| Philippines | 30,100 | 34,350 | 640 | 720 | 3.9 | 2.7 |
| Thailand | 27,070 | 31,140 | 600 | 670 | 4.4 | 2.5 |
| Indonesia | 52,930 | 61,770 | 450 | 470 | 1.5 | 2.7 |
| Pakistan | 21,170 | 24,870 | 270 | 300 | 1.5 | 3.1 |
| India | 18,090 | 21,500 | 210 | 240 | 1.6 | 2.1 |
| Nepal | 1,840 | 1,980 | 130 | 140 | 0.3 | 2.4 |
| Bangladesh | 9,910 | 11,170 | 110 | 120 | 0.8 | 3.0 |

Source: Bangladesh Bureau of Statistics, Statistical Pocket Book of Bangladesh, 1981.

のための輸送した物資は約2500点に及んだが、その中の約10点ほどが外国製品であり、あとは全部国産品であったという。バングラデシュは1971年12月に終了した独立戦争後11年経過している。11年といえば、第1回の南極観測船が出発した時期が第2次大戦終了後11年目である。同期間に、日本はほぼ全物資を国産でまかなえたのにバングラデシュで自給できるものは極めて少ないのは何故か。

アメリカのノーベル経済学賞受賞者のT.W. シュルツ博士は「開発途上国の農業発展で最も重要な要因は教育研究投資である」(土屋圭造監訳、T.W. シュルツ著『貧困の経済学』1981年)と喝破されたが、バングラデシュの教育水準の低さが日本とバングラデシュの成長力格差をもたらした重要な要因である。この意味でBCASの創設による農業教育の拡大整備がバングラデシュ農業の発展に大きな役割を果たすであろうことは間違いない。

表2には科学者数の国際比較を示している。人口はバングラデシュが9,000万人、日本1億1,000万人で約20%の差にすぎないが、バングラデシュの科学者やエンジニア数は23,500人、技士40,000人であり、日本はそれぞれ412万2,000人、164.0万人の7,700人であり、日本は2.0~4.0倍も多い。調査研究に従事する科学者やエンジニアはバングラデシュ1,649名、技術者は763名、日本はそれぞれ407,192人、87,783人であっていずれも格段の差がある。

表2 Technological Manpower Position of some Selected Countries

| Country | Year | Total Stock | | Engaged in Research and Dev. | |
|-------------|---------|-------------------------|-------------|------------------------------|-------------|
| | | Scientists and Engineer | Technicians | Scientists & Engineer | Technicians |
| Bangladesh | 1973-74 | 23,500 | 40,000 | 1,649 | 763 |
| India | 1976 | 697,600 | 1,630,600 | 28,233 | 26,872 |
| Iran | 1974 | 16,183 | 56,449 | 4,896 | 857 |
| Iraq | 1974 | 43,645 | 24,689 | 1,486 | 376 |
| Japan | 1977 | 4,127,200 | 16,407,700 | 407,192 | 87,783 |
| Korea | 1977 | 799,970 | — | 12,771 | 9,316 |
| Pakistan | 1973-74 | 111,000 | — | 4,164 | 4,626 |
| Phillipines | 1976 | 1,083,742 | — | 3,647 | 2,408 |
| Singapore | 1977 | 12,616 | — | 635 | 448 |
| Sri Lanka | 1972 | 37,769 | — | 2,076 | 5,265 |
| Thailand | 1975 | 20,288 | 47,344 | 6,097 | — |
| U.S.A. | 1977 | 2,452,000 | 958,000 | 560,800 | 44,800 |
| U.S.S.R. | 1977 | 1,053,700 | 14,641,000 | 1,279,600 | — |
| U.K. | 1975-76 | — | — | 79,300 | 75,800 |

Source : Bangladesh Bureau of Statistics, Statistical Pocket Book of Bangladesh, 1981.

表3は「読み書きのできる人」の国際比較をしたものであるが、バングラデシュは男性37.1%、女性13.2%にすぎず、インドネシアやタイに比較しても圧倒的に少ない。特にバングラデシュの農村部の女性では僅かに11.5%にすぎず、残りの88.5%は文盲であって新技術の普及は困難であることを示している。

今回の調査にあたっては、農林大臣、農林次官等をはじめ、バングラデシュ側の枢要の地位にある人達は数多くお会いし見解をきく機会があった(面会者氏名参照)。討論も多岐にわたったがそれらのモッサンスは、Minutes(資料1.0-1)として残してきたので、Minutesの順序にしたがって今回の調査及び先方との協議の総括を試みたい。

表3. Percentage distribution of Illiterates (15 years and above) of seven Asian countries including Bangladesh by sex and urban-rural breakdowns.

| Country | Census date | All areas | | |
|-------------|-------------|-----------|------|--------|
| | | Total | Male | Female |
| Bangladesh | 1-3-1974 | 25.8 | 37.1 | 13.2 |
| Indonesia | 24-9-1971 | 56.6 | 69.5 | 46.6 |
| Iran | 20-11-1966 | 36.2 | 47.1 | 24.3 |
| Malaysia | 25-8-1970 | 58.5 | 72.1 | 45.1 |
| Nepal | 22-6-1971 | 12.5 | 22.4 | 2.6 |
| Philippines | 6-5-1970 | 90.4 | 91.4 | 88.1 |
| Thailand | 1-4-1970 | 78.6 | 87.2 | 70.3 |
| India | 1-4-1971 | 34.1 | 47.7 | 19.3 |

| Country | Urban | | | Rural | | |
|-------------|-------|------|--------|-------|------|--------|
| | Total | Male | Female | Total | Male | Female |
| Bangladesh | 48.1 | 57.8 | 33.1 | 23.4 | 34.6 | 11.5 |
| Indonesia | 76.7 | 87.6 | 66.1 | 52.2 | 65.5 | 40.1 |
| Iran | — | — | — | — | — | — |
| Malaysia | 67.8 | 80.2 | 55.4 | 54.4 | 65.5 | 40.4 |
| Nepal | — | — | — | — | — | — |
| Philippines | 92.6 | 94.0 | 91.3 | 97.4 | 79.6 | 73.2 |
| Thailand | 87.7 | 93.7 | 81.9 | 77.1 | 86.1 | 68.3 |
| India | 60.4 | 72.4 | 45.5 | 27.1 | 40.6 | 13.0 |

Source : Bangladesh Bureau of Statistics, Statistical Pocket Book of Bangladesh, 1981.

(2) B C A S の管理運営の概括

① スタッフの採用

教授陣は、専任教官と兼任教官にわけて採用する予定である。常識からいえば専任教官が主流をしめ、不足する分野を兼任教官にて賄うのであるが、構想は発足当初は B A R I と B R R I (Bangladesh Rice Research Institute) の博士号を有する研究者を教授として兼任させる予定である。該当者は現在 B A R I に 40 人、B R R I に 20 人にて毎年増加している。Minutes (資料 10-1) の Annexure A (付表参照) に年次計画が示されているが、専任教官としては、1983-84 年に準教授 10 名、助教授 9 名、講師

110名採用の予定である。現在のスタッフは学長代行としてDr. A.K.M. Amjad Hossain (正式の職名は Project in Charge of a Technical Cooperation on the Citrus and Uegetable Seed Research Center, B.A.R.I.)が任命されており、前歴はB.A.R.I.のかんきつ部の Principal Scientific Officer (コネル大学博士)であった。大学の創設にとって、最も基本的なことは良いスタッフのリクルートである。学長やスタッフにすぐれた人を得ることは、すぐれた大学になるための必須条件である。さし出がましいと思われたが、パングラデシュ国内では議論しにくい問題であるので、この点を強く要望した。多数の関係者の意見では人材の公募もなく、派閥重視、安易な人事が行われやすい危険があると思われたからである。

ちなみにDr. Hossainは、B.A.R.I.の下部組織である Horticulture Division のさらに下部のかんきつ研究室の室長クラスであった。1 Division (部)には、Principal Scientific Officer 2名、Senior Scientific Officer 4名、Scientific Officer 1~2名いるので、Dr. Hossainの地位は余り高くないと評価して差じつかえない。事実上1982年6月4日の Post-Graduate Studies Committee (表4及び資料10-7)によ

表4 Post Graduate Studies Committee の構成員

- | | |
|--------------------------------|--|
| 1. Dr. Mohammed Hossain Mondal | - Associate Director (Research). |
| 2. Mr. Masharraf Hossain | - Associate Director (B S). |
| 3. Dr. Ayubur Rahaman | - Associate Director (TCF). |
| 4. A.F.M. Hafizur Rahman | - Head, Soil Science. |
| 5. Dr. M.M. Rashid | - Head, Horticulture Division. |
| 6. Dr. Ameerul Islam | - Head, Entomology Division. |
| 7. Dr. Sharafat Hossain Khan | - Head, Plant Breeding. |
| 8. Dr. Hamizuddin Ahmed | - head, Plant Pathology. |
| 9. Dr. A.F.M. Moniruzzaman | - Head, Agronomy Division. |
| 10. Dr. S.M. Elias | - Head, Agril. Economics. |
| 11. Mr. Nurul Islam Khan | - Principal Scientific Officer. |
| 12. Dr. A.K.M. Amjad Hossain | - Princinpal Scientific Officer (Citrus). |
| 13. Dr. M.S. Islam | - Principal Scientific Officer (Chem.) |
| 14. Dr. Zahurul Karim | - Principal Scientific Officer (Soil Phy.) |
| 15. Mr. Md. Abdus Satter | - Acting Head, Agril. Engg. Division. |

(註) 1982年6月4日の列席者名簿、Dr. Ayuhur RahamanがCommitteeの座長となった。

れば委員会の出席者の1.2位に位している。B.A.R.I.のAssociate DirectorであるMr. Masharrif Hossain (Post Graduate Committeeの2位に位する人物)が私に語ったところによれば、「現在B.A.C.の学長代行を兼任しているがこれはB.A.C.の学内紛争収拾のための措置であり、自分にとっては役不足の地位の低い仕事をしている。」学長が誇りを持って職務に精励できるような組織になっていないと大学は良くならない。

学長資格について、J.I.C.A.の村越所長がB.A.R.I.のAssociate Directorであり、Projectの総責任者である「Dr. Rahaman以上の人」という発言したが、これに私は大変勇気づけられた。眼前に学長代行のDr. Hossainがいて、議論するのであるから、余り都合の良いものではない。事実Dr. RahamanはDr. Hossainでは不満なのかと私に設問した。私はすかさず、「東京大学、京都大学等日本の主要大学の学長の位階は高く、例えば俸給は政務次官と同じである。B.C.A.S.にも同じ階位に相当する傑出した人物が欲しい」と主張し、Minutesにおいては eminent scientist with adequate background of research, teaching and administration という表現で落着いた。Administrationはバングラデシュ側の強い要望で入れたが著名な科学者で学長候補は数名いるようであるが、バングラデシュ側は行政能力も必須な要件として主張した(例えばB.R.R.I.の所長のDr. S.M. Hussenuzzaman 等である)。

② カリキュラム

B.C.A.S.は1983年の秋から開学の予定である。さきに述べたように既に建物が完成しているが1983年4月現在B.C.A.S.の管理運営については殆んど準備がなされていなかったのは驚きであった。日本ならさしづめカリキュラム委員会を発足させて、喧々ごうごうの議論の後、大筋の大纲が決定されている時期である。バングラデシュ側の言い分の一つはB.A.U. (Bangladesh Agriculture University.....マイメンシン市にあり)のカリキュラムを用いて後で修正するとのことであるが、それではB.C.A.S.の設立の趣旨は何であったかということになる。計画委員会(Planning Commission)の5ヶ年計画にあるようにB.A.U.はアカデミックな研究に片よりすぎて実学的な教育がなされていない、すなわち日本流に言えば「農学栄えて、農業滅ぶ」という危機感がバングラデシュ側にある。

B.A.U.が文部省から農林水産省に移管されたのもその弊害が一因であるといわれている。

そのためB.C.A.S.では実学的な教育を建学の旗印にしていたはずである。

実学教育を目標にしたカリキュラムは独自のものがあって然るべきである。バングラデシュ側の準備不足を痛感した。バングラデシュのこのイージー・ゴウイングの思考は何処から派生したか、怠慢もさることながら現行のバングラデシュの大学における農業教育の方法にかわりを持っている。現在バングラデシュにおいて農業関係ではB.A.U.とB.A.C.の二大学があるにすぎない。B.A.U.はアメリカ政府の援助の下にテキサスA & M大学が協

力を行って創設した大学である。パングラデシュで唯一の農業大学らしい大学と言われ、PhDコースも併設されている。BAUを訪問し、学長以下関係者と大学の管理運営の現状と問題点を討論し、BCASの創設に関してアドバイスを得ることは、私達の調査団にとっては成果をあげるために必要不可欠な要因であった。Dr. Rahamanに何回もBAU訪問をお願いしたが、極めて消極的な返答に終始した。そのため農林大臣Mr. Ubaidler Khanや農林次官のMr. A.M. Anisuzzamanにもお願いして賛同を得たが、結局BAU訪問は実現できなかった。

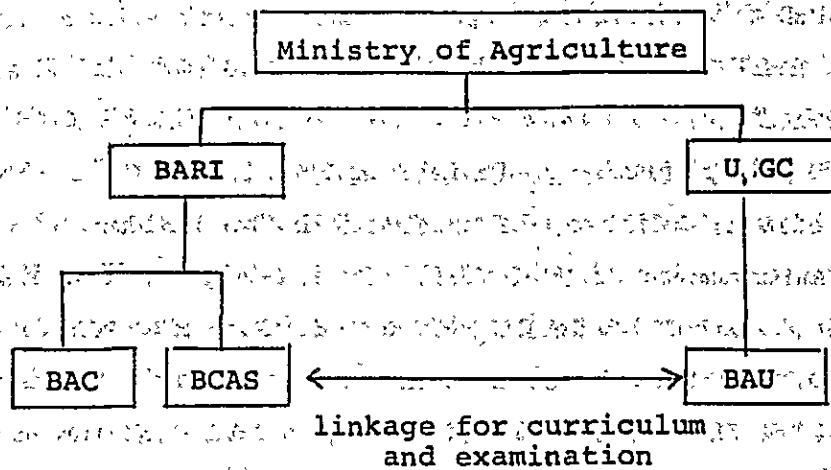
ダッカ市内にあるBACは訪問することができた。日本で言えばせいぜい農業高校程度の設備、陣容である。そのためか入学試験は独立に行うが、カリキュラムはBAUと同じものを使用し、学期末試験は同日に行っておりBAUのAffiliationの関係にある。BCASの運営にもこの方式を利用しようとしているが、これでは実学を尊ぶという建学精神をそこなうことになりかねない。

③ 問題点

(i) BCASの管理運営にとって最大の問題点はBCASがCollegeであってUniversityではないことである。パングラデシュから日本に来ている留学生に、「帰国後BCASに就職するか」ときくと、「BCASはCollegeであってUniversityではない。できればUniversityに就職したい」と述べていた。後でくわしく述べるが、BAUとBACには格段の差がある。図1でBACとBCASの関係をみると、全く同格に位置づけられている。BACの現状は研究の雰囲気とは程遠く、留学生の発言もむべないかなと思われた。

(ii) Minutes (資料10-1)のAnnexure-Bに示したように、BCAS創設の構想ではBAUの室長クラスが兼任教授となることになっている。彼らの多くはアメリカを中心とする外国においてPhDを取得してきているが、パングラデシュに帰国後は研究設備が乏しく、また管理職になる者が多く雑事におわれる等して、さしたる研究業績もなっていないようである。BAUの教官もまた日本人専門家も彼等の評価については、ほぼ同意見であった。この種の人々を兼任教授として任命すると大学の研究水準は高まらない。

図1 BAC、BCAS、BAUの管理機構図



(注) BARI: Bangladesh Agricultural Research Institute.
 BAC: Bangladesh Agricultural College.
 BCAS: Bangladesh College of Agricultural Sciences.
 U/GC: University Grant Commission.
 BAU: Bangladesh Agricultural University (Mymensingh University).

(出所) Dr. Ayubur Rahaman よりのききとり調査

(説明) 上図ではBAUがBAC及びBCASと同ランクの様な印象をうけるが、BAUが農業省に編入された場合は、BAUはBARIと同格の扱いとなるものと推定される。

(3) 学生の入学

既にのべたように学部学生の入学許可は、1983年7月ごろ高校卒業認定試験 (Higher Secondary Certificate Examination) 結果が公表されるので、その結果を待つて決定され、開学は本年秋と言わたている。

MinutesのAnnexure-A (付表2)に入学予定学生数の年次計画を示してある。年次計画は1981年10月作成、Profoma for Project Evaluation (Project Digest) に一応記載されてはいるが、今後の大学運営には非常に巨額な資金が必要である。バングラデシュ側は年次実施計画の作成を決ったが、調査団が強く要望して作成してもらったのがAnnexure A (資料10-1)である。問題は学生寮の収容能力である。さきに述べたように現在完成している施設では300名の収容能力しかない。1986年までに学生寮の拡張工事が行われれば、問題がないが、国家財政の $\frac{2}{3}$ は外国援助に依存しているバングラデシュに、外国の援助なしに特に日本の援助なしにそれが可能であるか否か問題である。

Post-Graduate Studies Committeeは表4に示したようにBARIのスタッフのみから

なり、B R R I のスタッフの参加はない。B R R I の副所長の Dr. Siddique Ahmed の話では「B C A S の創設に関しては B A R I から何らの相談も受けていない」とのことであった。

B A R I と B R R I の密接なる協力が B C A S の創設には望まれる。B A R I は B R R I の研究室長 (Division head) からも兼任教授を採用すると主張しながら、内実は B A R I が人事面では主導権を握り、なるべく B A R I 内部のスタッフで兼任教授を充足しようとしている意図とも考えられる。

(4) 施設について

1983年4月2日、日本側からバングラデシュ側に引きわたされた直後 B C A S を訪問した。職員宿舎、フェンス、農業や農舎等は未整備の状態にあり、完成していたのは職員宿舎としては学長及び事務長官舎2棟(2家族分)、職員宿舎1棟(6家族分)のみであった。

1983年秋から B C A S は開校予定であるので、調査団はこれらの整備をなるべく早くするように強く要望した。これに対しバングラデシュ側は「フェンス、農場、農舎等は自前の費用にて建設整備するが、職員宿舎については財政難のため日本の援助・協力ができないか」と要望してきた。これに対し調査団は「職員宿舎建設のために、日本がさらに援助することは困難であると思われるが、バングラデシュ側の要望を日本政府に伝えたい」ということで施設問題は一応の了解がついた。

今後必要とされる施設の建設年次計画は Annexure A (資料10-1) に一覧表として示されている。同表によると職員宿舎の建設資金は1983～84年1,608万タカ(約1億6,080万円)、1984～85年1,226万タカ(約1億2,260万円)、1985～86年824万タカ(約8,240万円)である。これを日本の援助に期待しているわけである。

率直に言って日本の援助なしでは職員宿舎の建設はおぼつかない。学生宿舎の例もあり、なぜこのような中途半端な援助が行われてきたのか。日本の援助の仕方にも問題がありそうである。推測するにダッカとジュイデプールの間は車で約1時間の距離である。日本の常識では通勤時間1時間はさしたる距離ではない。私達がダッカに滞在中、援助物資としてのバスも到着したのであるからバスを利用すれば、ダッカから職員の通勤も大して困難とは思われないと考えたのではなからうか?この点を B A R I の所長の Dr. Badruddoza にきくと、通勤時の高温という問題、又学生の指導管理の面から考え併せると、通勤では、大学運営はうまくいかない。C E R D I の例も見てもらいたいと言うことであった。また Dr. A. K. M.

Amazad Hossain は「バス通勤では天候によっては朝早く、あるいは夜遅くまで働かなければならないので、バス通勤では農場指導や研究はとても無理だ」とも述べた。

職員宿舎の建設協力については、種々の制約があるにしても、バングラデシュ政府の財政状況、人造り協力と言う面からも、本件については、特に日本政府も再検討する必要がある。

かと思われる。

(5) 教官の高等教育研修
バン格拉デシュ側は B C A S の教官に対して PhD や Master の学位取得のための日本で
の高等研修の機会を強く要望した。調査団は「技術協力プログラムでは長くて研修期間は 2
年であるのでその可能性は少なく、留学期間が 5 ～ 6 年も延長できる長期の文部省の留学生
制度等を利用すべきである」と説明した。これに関連してバン格拉デシュ側は B C A S と日
本の大学との Bilateral Agreement を強く要望した。Bilateral Agreement はバングラ
デシュ側が最も強く要望した点である。そのため長時間をかけて可能性を検討したが、現状
では B C A S と日本の大学にはそれぞれ問題点があり、直ちに Bilateral Agreement を結
ぶことは不可能であるとの結論に達し、Minutes からは削除した。

バン格拉デシュ側の要望が強かったのは B A U とテキサス A & M 大学との Bilateral
Agreement があり、B A U の多くのスタッフがテキサス A & M にて学位取得をじている先
例があるからである。外国への留学、学位取得はバングラデシュの若い研究者には夢であり、
またその夢を実現することのできる B A U には多くの有為な人材が集まったといわれている。
日本での高等研修、学位取得問題は Dr. Rahaman も最後まで固執していた点である。現行
の文部省の留学制度ではなるべく世界の諸国の学生に平等に門戸を解放するのが主旨である
ので、バングラデシュの留学生の比重を増加させることに問題がある。帰国後、文部省にも
要望してバングラデシュの留学生に対して国費の特別ワク拡大の可能性を検討してもらった
が、文部省では「ベトナム留学生に対して特別ワクを提供した先例がある。全くその可能性
がないともいうわけでもない」ということであった。

(6) 日本よりの専門家派遣要請

① 専門家の派遣

バングラデシュ側は日本からの専門家派遣を Minutes (資料 1.0-1) Annexure B に示
した優先順位で要請した。バングラデシュ側が最初に希望している専門家はプロジェクト
の実施や評価、監督の担当者であり、いわばプロジェクトのマネージャーである。B C A
S 創設プロジェクトの総責任者である B A R I の Associate Director が Counterpart に
予定されている。B C A S の創設業務にたずさわる大切な専門家であるが、日本ではこの
適格者は極めて少数であると思われる。
第 2 の順位で要請されているのは農場の整備、管理、農業機械の専門家である。作物栽
培学研究室長が Counterpart に予定されている。総じて専門家の要請順位は、(1) プロジ
ェクト・マネージャー、(2) 農業土木・農業機械、(3) 作物栽培、(4) 園芸、(5) 農業改

良普及、6) 植物栄養、7) 生物統計、コンピューター、8) 酪農である。また Counterpart はそれぞれの分野の研究室長が予定されている。

② 問題点

(i) 日本からの専門家を派遣する場合、Counterpart の役割は大変重要である。すぐれた Counterpart にめぐりあえば専門家の成果があがり、逆の場合には専門家は苦勞を強いられる。出発前文部省からも要望されたが、Counterpart に面接して evaluation をしてきて欲しいとのことであった。私もこの必要性を痛感して、Counterpart 候補者に面接することを要望したが、面接どころか、経歴書さえも提出してもらえなかった。パングラデシュ側の怠慢といわざるを得ない。

(ii) 第2は専門家が長期に滞在する場合、研究環境が極端に悪いことである。研究施設などは未整備であり、研究は殆んどできないと思わなくてはならない。余程サービス精神の旺盛な人でないと勤まらない。

(iii) 第3に現職の大学教官を長期に派遣することは授業や学生指導の問題もあり一般的には無理と言わざるを得ない。唯一の実現可能の派遣案は定年退職直後の元教授を長期に派遣し、その教授を核にして現役教官が短期専門家として2~3ヶ月滞在して協力することである。

(7) 設備、機械、実験用化学薬品類

B.C.A.S. に対しては、無償資金協力により資機材供与が行われているが更に技術協力で、考慮すべき設備、機械、実験用化学薬品類の一覧表は Annexure C (品目が多いので省略、Minutes の原文参照) に示されている。パングラデシュの財政状態では外国からの援助なくしては、これらの資材を整備することは無理である。できる限りの援助が望ましいが、問題はそれらの資材が必ずしも効率よく使用されていないことである。

B.A.C. を訪ねて援助物資をみせてもらったが、顕微鏡などは学生実習に使用されていたが天秤などは袋がかぶったまま陳列されていたし、乾熱滅菌器等も使用されている形跡はなかった。これでは折角の援助も無駄となる。又、図書については、B.A.C. の蔵書は、カレッジとしては、殆ど、ないに等しい位貧弱なものであり、今後 B.C.A.S. の技術協力では、この図書の整備も重要な課題になりそうである。

(8) 予算計算

調査団はパングラデシュ側に、「B.C.A.S. の運営が財政難のために阻害されないように適切な予算をつけるべきである。」と要望した。さきに述べたようにパングラデシュでは海外からの援助物資にも関税がかかる制度になっている。B.C.A.S. に対して日本からの総額 20

億円に達する援助物資についても5億円の関税をBARIが払わなければ、BARIはそれ
を入手することはできなかった。5億円はBARIの全予算の50%にも達する巨額である。
大蔵省の計画委員会農林部長のDr.A.H.M.Aliは1982～83年度におけるBCAS
Sの建設予算を提示してくれたが、これによると外国援助物資に対する関税率は20%に達
している。

Dr.Aliの説明による1983年7月～1984年6月のBCASに対する予算は、総収
入として200ラーク(1ラークは10万タカ約100万円)であるが、収入の中の半分に
当る100ラークを外国援助より得るものとして予め計上してあるのには驚いた。日本から
の援助に期待しているそうであるが、日本の外務省もJICAも援助額を決めていない段階
で、既にBCASの予算には計上されているのである。日本からの援助がなければ当然キャ
ンセルになる費目であるが、いかにも開発途上国らしい予算の作り方である。

(9) BACとBCASの関係

① 統合問題

BCASとBCASの関係については長時間真剣な討論が行われた。1981年10月の
Proforma for Project Evaluationに述べられているBCAS創設プロジェクトのうち、
最初の要請時点と最も変わった点はBACのBCASへの統合問題である。農林省の傘下に
3つの農業大学(BCAS、BAC、BAU)を持つことは、バングラデシュの財政状態
では難しいと誰も危惧の念をいだく。しかしバングラデシュ側には統合計画を破棄して
BCASをBACとは独立な大学として創設する計画であるとも聞いた。これは調査団に
っては大問題である。BARIの所長であるDr.K.M.Badruddozaや副所長であるDr.
A.Rahamanに尋ねたが、明確な返答は得られなかった。

農林大臣のMr.Ubaidler Kahnや農林次官のMr.A.M.Anisuzzamanにも見解をただし
た。Dr.Badruddozaも同席していたが、「5～6年以内にBACのBCASへの統合移
転は完了しBACは閉鎖する」と彼等は言明した。また、Dr.A.H.M.Aliは「19
80年5月に策定された第2次5ヶ年計画(1980～85年)は内閣で決定されたもの
であり、勝手に内容の変更はできない。5ヶ年計画の条項「X-II-18」には「The
Agricultural College at Dacca will be shifted to new site at Joydebpur with
necessary physical facilities」とあり、BCASとBACとの統合は決定済みである。
必要なのはBCAS創設の年次別実行計画を作ることのみ」とであるとの見解を述べた。調
査団員はDr.Aliの見解にはようやく安心した。ところが数日後の会議ではDr.Rahaman
によって統合は全く否定されてしまった。大臣も次官も予算の権限をにぎる大蔵省の担当
部長も「統合はする」という見解であり、それを知っている下僚によって彼等の見解が否

定されてしまうとは、日本では全く考えられないことである。いかにも開発途上国らしい。Dr. Rahaman の主張は次のようである。「Proforma に New Site at Joydebpur とあるものの、これは新設の B.C.A.S のことではない。第 2 次 5 年計画では各地域に 1 つずつ農業大学を作ること勧告しているので、B.C.A.S 以外の農業大学が Joydebpur に作られる可能性があり、それに B.A.C は統合合体するのである」とこれは全く詭弁以外の何物でもない。さき述べてきたように、予算が乏しく国家財政の $\frac{2}{3}$ を外国援助に依存している国で B.C.A.S 創設プロジェクトの総責任者の発言としては全くナンセンスである。それでは何故 Dr. Rahaman は B.A.C と B.C.A.S の統合に強く反対するか、これにはさまざまな理由がありそうである。次にそれらの理由を推察してみよう。

(i) B.A.C は 1938 年にダッカ大学の分校として創立された。1961 年に B.A.U が創立されるまではバングラデシュ唯一の農業大学であった。そのため現在農業界の重要な地位を占めている多くの卒業生は B.A.C に愛着があり、それを廃校にしてしまうには抵抗がある。また、できれば B.A.C はそのまま存続させたいというセンチメンタルな感情がある。

(ii) B.A.C には 1983 年現在 58 名の教官がいるがその中で PhD を持っている教官は 2 名にすぎず、さきに述べたように、B.A.C が統合されると、B.C.A.S ではせいぜい Assistant Professor (日本の大学助手相当) に格付される。B.A.C の教官の抵抗がある。

(iii) 日本の大学移転で問題になるのは教官の居住条件である。東京教育大学の筑波大学への移転問題は大もめにもめた。理念上の問題があったとしても移転反対者の大部分は、東京に確たる住居を構えていた教官であったと聞く。それと同様にダッカの市内から離れて全く田舎町の Joydebpur に住むのに、教官の抵抗があるのは想像に難くない。

(iv) バングラデシュの大学ではストライキが頻発する。調査団がバングラデシュを訪問した時も多くの大学で「小学校からアラビア語が必須」という文教政策に反対して大学の学生ストライキが行われていた。B.A.C と B.C.A.S の統合が明確になると学生の中に反対者があらわれ学生紛争がおこる可能性がある等々であった。

このためか、Minutes (資料 10-1) に統合問題を明示することは、Dr. Rahaman が断固として反対した。日本側としては技術協力の基本問題にかかわるものであり、過去の調査団が何等言及していなかった重要な点であるので、明確にしたかったが、Dr. Badruddoza の見解にしたがって "Both Sides discussed about the relationship of B.A.C and B.C.A.S" という表現で落ち着いた (過去の調査団が問題にしなかったので「B.C.A.S は B.A.C と統合しない」という事は日本側も既に了解している事項であると Dr. Rahaman は主張した)。

② B A U と B C A S

後述する B A U の概観からわかることは、B A U は B A C とは教官、学生、予算等何れをとってみても格段にすぐれており、University に値するが、B A C はせいぜい短期大学あるいは農業高校の水準と考えられる。もし B C A S が B A U なみの大学を指向するならば、今後巨額の外国援助が必要となろう。また、B A U 並みの大学を指向するならば、創立当初から Bangladesh College of Agricultural Sciences の代りに、Bangladesh University of Agricultural Sciences と呼び、College の代りに University の呼称を使用すべきではないか。パングラデシュ側が真に B C A S を B A U なみの大学として創立しようとする意図があるか否かが問題である。

(10) パングラデシュにおける教育制度の不安定性

パングラデシュは独立以来、わずかに十余年の歳月を経過しているにすぎない。従って政治、経済、その他あらゆる面で国の施策が安定していないようである。教育制度についても例外ではない。

1983年1月29日付、文部大臣名で、現在の教育制度を手直しする案、即ち“New Proposal for Education Principle and Management”が公表された(資料10-2)。その内容は、初等・中等教育制度の改革案が主体となっており、独立後長期間の調査結果から得られた改革案である。その中に、アラビア語コースをすべての回教徒に強制するという内容があり、これが全国の大学生達を刺戟し、多くの大学は2月中旬からストライキに突入り、4月上旬まで学業が放棄された。現在、パングラデシュの大学生の多くはベンガル語(自国語)以外の英語、アラビア語、その他の外国語は強制的に習わせるべきでなく、選択にとどめるべきであるとの意向が強いようである。アラビア語を重視するということは中近東の回教国への接近を指向するものと受取られ、これも学生の反発を招く1原因になったのかも知れない。

また、2月に戒厳司令官の名で、B A U を文部省から農業省に移すことが指令されたといわれる。4月13日現在までこの案は実施されてはいなかったが、ごく近い将来、B A U が農業省の一組織として移される可能性も考えられる。これが実施されるとすればその省内における位置付けおよび農業省所属の各研究機関との関係、さらには B A R I に所属している B A C と B C A S などとの関係が極めて重要な問題となろう。

(11) 協力に当って考えさせられること。

パングラデシュは世界の最貧国の一つである。表-5をみれば、1982年12月のダッカ市内では農業労賃(1日当り)、熟練:24タカ、非熟練:17タカ、Khula地区ではさ

表-5 Average daily wage-rates for agricultural, fishery and industrial workers at selected centres.
(Taka per day)

| Economic group | Type of labour | Dhaka | | | Rajshahi | | | Kbulna | | |
|-----------------------------|----------------|-------------|-----------|-------|-------------|-----------|-------|-------------|-----------|-------|
| | | 1981-82 (P) | Jul.-Dec. | Dec. | 1981-82 (P) | Jul.-Dec. | Dec. | 1981-82 (P) | Jul.-Dec. | Dec. |
| | | | Jul.-Dec. | Dec. | | Jul.-Dec. | Dec. | | Jul.-Dec. | Dec. |
| 1. Agriculture | Skilled | 23.08 | 23.87 | 24.00 | 16.15 | 16.53 | 15.00 | 16.00 | 14.79 | 15.00 |
| | Unskilled | 15.72 | 18.33 | 17.00 | 14.64 | 15.39 | 14.00 | 10.22 | 9.00 | 9.00 |
| 2. Fishery | Skilled | 23.35 | 25.52 | 26.00 | 15.75 | 20.42 | 20.00 | 19.22 | 16.08 | 16.00 |
| | Unskilled | 20.61 | 19.52 | 20.00 | 13.79 | 15.10 | 16.00 | 10.16 | 11.60 | 10.00 |
| 3. Industry:- | Skilled | 24.83 | 26.79 | 27.00 | 24.77 | 24.77 | 24.77 | 25.95 | 28.73 | 29.00 |
| (i) Cotton textile | Unskilled | 18.39 | 19.45 | 20.00 | | 21.17 | 21.17 | 18.00 | 20.66 | 21.00 |
| (ii) Jute textile | Skilled | 22.44 | 24.45 | 25.00 | 20.34 | 20.62 | 20.66 | 26.70 | 29.73 | 30.00 |
| | Unskilled | 17.12 | 17.38 | 18.00 | 17.96 | 18.62 | 18.84 | 17.86 | 22.06 | 22.00 |
| (iii) Match | Skilled | 27.95 | 27.42 | 27.00 | 16.67 | 22.55 | 22.42 | 28.83 | 33.96 | 35.00 |
| | Unskilled | 20.48 | 19.03 | 20.00 | 14.86 | 18.48 | 18.76 | 18.66 | 21.48 | 22.00 |
| (iv) Engineering | Skilled | 33.58 | 35.83 | 35.00 | 39.56 | 47.92 | 50.00 | 20.07 | 20.00 | 20.00 |
| | Unskilled | 21.89 | 25.18 | 25.00 | 22.48 | 20.61 | 20.00 | 10.49 | 10.00 | 10.00 |
| (v) Vegetable (mustard oil) | Skilled | 24.07 | 24.58 | 25.00 | 14.80 | 15.00 | 15.00 | 15.01 | 15.14 | 15.00 |
| | Unskilled | 17.78 | 19.58 | 20.00 | 11.88 | 12.00 | 12.00 | 10.00 | | |
| (iv) Average for Industry | Skilled | 26.57 | 27.83 | 27.86 | 22.84 | 25.97 | 26.57 | 23.31 | 25.81 | 25.80 |
| | Unskilled | 19.38 | 20.13 | 20.60 | 16.79 | 18.02 | 18.15 | 15.93 | 19.26 | 18.75 |

(出所) Bangladesh Bureau of Statistics, Monthly Statistical Bulletin of Bangladesh, Janour, 1983.
Chittagom Sylhet, Rangpur

表-6 大学教官の俸給表

(月額 タカ)

| | BAU | BAC |
|---------------------|---------------|---------------|
| Professor | 2,350 ~ 2,850 | 2,100 ~ 2,600 |
| Associate Professor | 2,100 ~ 2,600 | 1,800 ~ 2,100 |
| Assistant Professor | 1,700 ~ 2,100 | 1,150 ~ 1,700 |
| Lecturer | 750 ~ 1,450 | 750 ~ 1,450 |

(出所) B A Rにて聴きとり

さらに安く、熟練：1.5タカ、非熟練：.9タカである。1タカは日本円の約1.0円に相当する
ので、.9タカといえは9.0円にすぎない。製造工業の賃金も農業と大同小異で、極端に低い。
これは大学教官にもあてはまる。表-6はこれを示したものである。教授でBAU 2,350
~2,850タカ(2万3,500円~2万8,500円)、BAC 2,100~2,600タカ(2
万1,000円~2万6,000円)である。この俸給表でもBAUの教授はBAUに比較して
低く格付けされており、BACはBAUの低位にある。ちなみにBARIのDirectorは
3,000タカ~、Associate Director 2,850タカ~、Principal Scientific Officer
2,350タカ~である。俸給表からいえば、BARIのPSOはBAUの教授クラスと
言えよう。Dr. Rahamanが私に語った所によれば「自分はBARIの中で第2の高額所得者
であるにもかかわらず、家をもつことができない」と。現在、Dr. Rahamanは広大な大邸宅
に住んでいる。しかし、これは官舎であって私宅ではない。ダッカ在住の平均的な日本人の
借りる邸宅は家賃が月15万円もするので(利子率を月10%とすれば、資産価値は1,800
万円)、3万円前後の月給ではとても、貯金によって家屋を持つことは難しい。

Bangladeshでは国内の高等教育施設が十分でないため、子弟の外国教育には熱心であ
る。しかし上記の低賃金では子弟の外国教育は不可能である。勢い外国の大学や国連の關係
機関等に高給を求めて奉職したがる傾向がある。BCASのプロジェクトにも関係がある某
高官は「国連から年俸40,000ドルのofferがある。行くべきか、Bangladeshに止ま
るべきか迷っている」と私に語ったが、これはこの高官のみではなく、Bangladeshの一
般的な風潮といえよう。政府高官が国を棄てるようなことがあるとすれば、Bangladesh
の発展は望めない。

BAUのGraduate Training Instituteの所長、Dr. Abdul Halimは「BCASの教官
は博士や修士を取得するために外国留学が必要である。ただし、学位取得後はBCASに帰
るべきである」と述べたが、私の経験でも九州大学で学位を取得した4人(医学1、理学1、
農学2)は、直ちにアメリカに渡り、研究所づとめをしている。もしこのようなことが起る
とBCASの発展は阻害され、何のための留学かということになる。また日本のBCASに
対する援助にこの事態が十分起る可能性もある。Bangladeshは先に述べたように成長率
はGNP 0.8%、人口3.0%であるので一人あたりの成長率は-2.2%となる。これは国民
総生産の伸び率に比較して人口の伸び率が高く、1人あたりにすると2.2%の生産物の減少
となる。かりにこの傾向が続くとすれば、年々Bangladeshは貧しくなっていく。文盲率
が75%であり(表3参照)、食糧生産の増加も人口の抑制もうまくいかないとすれば、Ba
ngladeshの経済発展は望めず、高級公務員が国を棄てたくなるのも理解できないことは
ないが、それでは誰がBangladeshの経済や農業の発展を担うかということになる。

T.W. シュルツ博士は先進国への安易な食糧援助について「開発途上国の農産物価格を下

落させて、農民に増産意欲を失わせる」と警告を発しているが、開発途上国にとって最も大切なことは自立の精神である。大塚駐バングラデシュ大使は「開発途上国の技術協力とは技術援助を謙遜して言う言葉であると思われるがそうではない。開発途上国の協力なくしては、技術援助も何の効果も発しない、まさに技術協力である」と述べられたが、至言であって、バングラデシュ国に自立や協力の精神がなければ日本の技術協力も無駄となる。特にバングラデシュの政府やそれを担う高級公務員の自覚が要望される。

また日本の技術協力にも再検討の余地がある。BCASの事例のように建物は完成しても、その後の管理運営体制の計画がないというのでは実効があがらない。技術協力は長期計画をふまえて実施する必要がある。

6. 農林省及びBCAS（バングラデシュ農業科学カレッジ）の機構並びにBCASの施設の現状

(1) 農林省の関係機構

バングラデシュ政府農林省は、既述のように、ダッカ市北方約30 Km、車で約50分のジョイデプウルにバングラデシュ農業専門学校（BAC）を移転することとし（図2、3、4参照）、我が国にこの大学の移転新設と、新設後の大学運営に対する技術協力を要請してきたもので、これに応え、我が国は建物建設（学生600人収容）を無償資金協力で実施し、昭和58年3月31日に完成し、相手政府に引渡した。もともとダッカのバングラデシュ農業専門学校（BAC）は、農林省の農業研究所であるBARI（Bangladesh Agricultural Research Institute）の所管するところであり、したがって、Joydebpulに新設されたこの建物は、当初からBARIの所管のものとして、BARIの局長及び局次長の指示によって国内建設はすすめられ、カレッジの構想運営方針もBARIの意向で策定されている。ただ、途中から、BARIは、ダッカの農業カレッジを移転する方針を変更し、ダッカのカレッジをそのまま温存して、ジョイデプールの農業科学カレッジ（BCAS）を新設し、ダッカの既存のBACと併存させたい意向のようである。

農林省及びBARIの組織を表7、8にて示しました。なお関連のあるBARIについては、資料10-4にて「ABOUT BARI……1980」の英文抜粋を示したので参考とされたい。

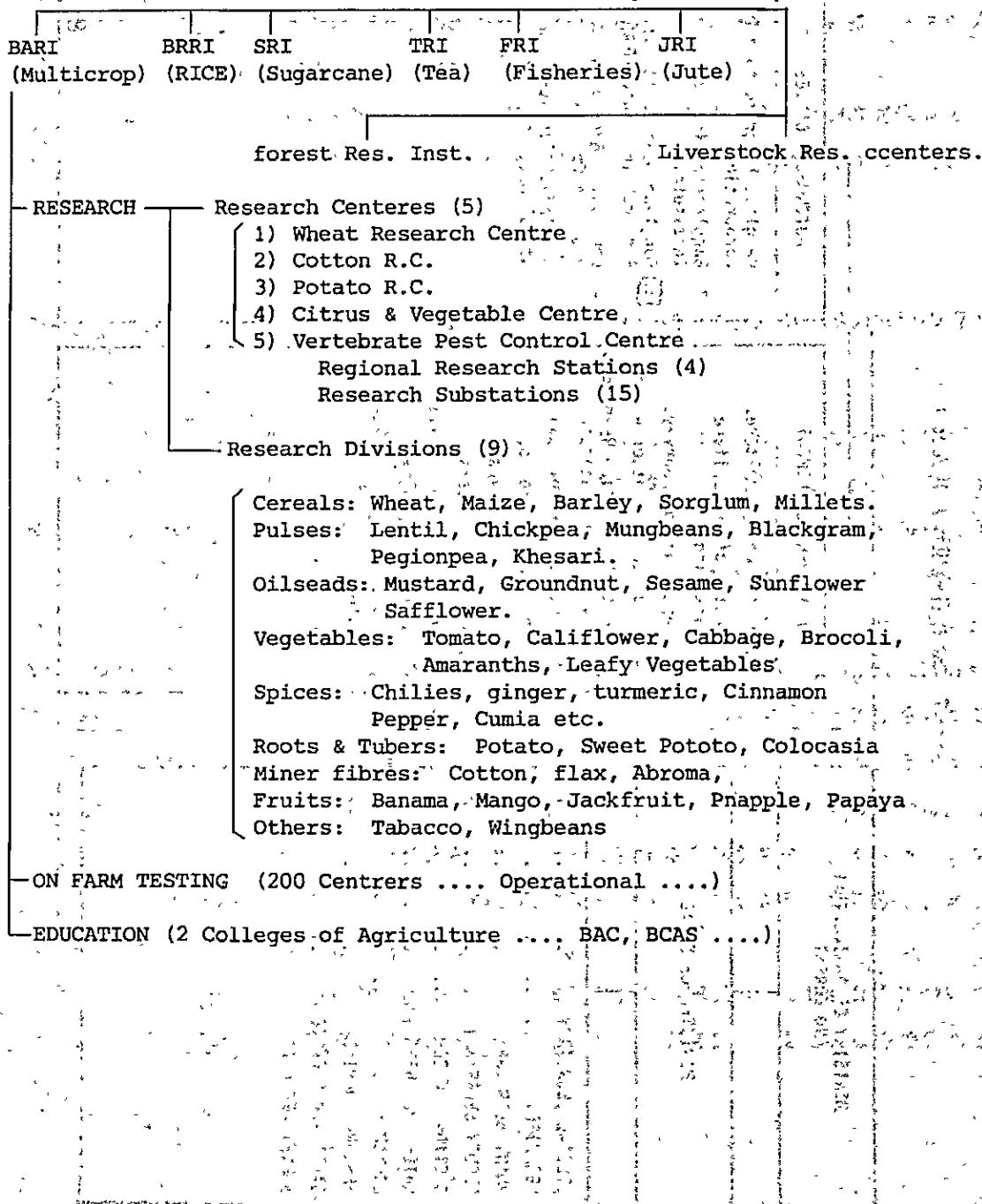
表-7 農林省の組織とBARI

| | | |
|--|---|--|
| <p>MINISTRY OF AGRICULTURE AND FOREST</p> | <p>ATTACHED DEPARTMENT</p> | <p>AUTONOMOUS BODIES</p> |
| <p>MINISTER OF STATE</p> | <p>1. Deptt. of Agriculture. 2. Deptt. of Agriculture Marketing. 3. Deptt. of Soil Survey. 4. Seeds Certification Agency. 5. Central Extension Resources Development Institute. 6. Horticulture Dev. Board 7. Tobacco Dev. Board. 8. Cotton Dev. Board. 9. Deptt. of Forests. 10. Intensive Jute Cultivation. 11. Deptt. of Forests 12. Plant Protection Directorate.</p> | <p>1. Bangladesh Agriculture Dev. Corporation. 2. Bangladesh Rice Research Institute. 3. Bangladesh Agricultural Research Institute. (BARI) 4. Bangladesh Agricultural Research Council. 5. Bangladesh Forests Industrial Dev. Corporation</p> |
| <p>SPECIAL SECRETARY SECRETARY JOINT SECRETARY DEPUTY SECRETARY SECTION OFFICER CHIEF, PLANNING CELL ECONOMIST RESEARCH OFFICER STATISTICAL OFFICER SURVEY OFFICER</p> | | |
| <p>1 1 4 8 24 3 7 12 1 1</p> | | |

表-8 BARI の組織

BARC (Bagladesh Agricultural Research Council)

--- coordinating Agency. ---



BARI の Staff 構成

| | |
|-------------------------|--------|
| Professional Scientists | 560名 |
| Support Staff | 1,810名 |
| 合 計 | 2,370名 |

(2) Bangladesh College of Agricultural Sciences (BCAS) の機構 (計画) と

施設の現状

① 所在地 Joydebpur (Salna), Dacca. (ダッカ市北方約 30 Km)

② 学 制 学 部 4年(当面1学年60名)

大学院 2年(当面1学年60名)

学生数(含大学院) 360名

③ 大学組織(計画)

(i) 大学事務局

学 長(プロジェクト・Director) Principal 1名

副学長 1名

その他、事務長以下 4.5名(計4.7名)

(ii) 学 科

| | 教 授 | 準教授 | 助教授 | 講 師 | 助 手 | 人 夫 |
|-------------------|-----|-----|-----|------------|-----|-----|
| 農 学 科 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 昆 虫 学 科 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 作 物 生 理 学 科 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 植 物 育 種 遺 伝 学 科 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 農 業 化 学 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 土 壤 科 学 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| 園 芸 学 科 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 統 計 或 生 物 統 計 学 科 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 生 化 学 科 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| 植 物 病 理 学 科 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 農 業 普 及 管 理 学 科 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| 農 業 經 済 学 科 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | | | | (インストラクター) | | |
| 農 業 工 学 科 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| 食 料 科 学 科 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 畜 産 学 科 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 小 計 | 7 | 13 | 10 | 15 | 13 | 15 |

(計 73名)

③ 付属施設関係者

図書館 16名

農場 22名

修理工場 16名

体育館 2名

ヘルスセンター 3名

学生宿舎 39名

小計 (88名)

大学教授・職員学総数 208名

但し、この人数は、学生600名を対象として計画されている Proforma of Project (OCT.1981) による。

④ 大学施設、現状と準備状況等

日本政府の協力により建設された建物は次のとおり。

| 建物名 | 面積(m ²) | 室名 |
|---------|--------------------------------------|--|
| 1. 管理棟 | 2階建 1,120 m ² | 学長室、局長室、事務室、小会議室、講堂、便所、 図書室(書庫、閲覧室及び事務室) |
| 2. 教室棟 | 2階建 4,600 m ² | 教授室(20室)、助教授室、講師室、事務室、実験 室(4室)、準備室(4室)、講議室(15室) 便所 |
| 3. 作業棟 | 平屋 380 m ² | 作業室、教室、事務室、便所 |
| 4. 共用施設 | 平屋 310 m ² | 食堂、厨房、診療室(男女別)、便所 |
| 5. ホステル | 2階建 一部3階建 5,940 m ² | 男子学生居室(4人用、56室)、女子学生居室(4 人用、19室)、食堂(男女別)、厨房、管理入室、 管理事務室、休憩室、便所、シャワー室、 居住棟 62 m ² × 6戸 140 m ² × 2戸 |

(廊下、階段、外部渡り廊下を含む)

⑤ 大学としては学生600人を対象に建てられているが、寄宿舎は300人分である。

なお、実験室としては、600人の学生を収容した場合には、やや手狭となると憂慮された。更に、研究室に、実験のための水道、ガス、排水施設が入っていないが、理科系の研究室には、絶対必要なものであるので、この点を将来、若干の手直しが必要となる。

⑤ 電気施設：4月時点では大学敷地まで導入されている。変圧器で220Vまで落して、導入する許りになっていた。

⑥ 給水施設：我が国の協力により施設は完成している。即ち130mのボーリング、揚水ポンプ、地下タンク(150屯)1基、高架タンク(-24屯)1基、ポンプ用非常発電機及び浄化装置一式を供与済みで、豊富で良質な水が供給されている。

⑦ 電話施設：架線は約3.5マイル(約5.6Km)はなれた地点まで来ているので、ここから設置しなければならない。予算的には、困難でもない金額で可能であるが、調査時点では未実施であった。(なお、58年9月末日時点でも未実施)

⑧ 市ガス：これも、メイン管から約5.6Kmはなれているので、配管の埋設工事を行わねばならない。単独で着工するにはかなりの金額を必要とするので、カレッジ単独では、実行できそうもない。このカレッジ近辺に他の公共施設が近く建設される予定でもあるので、これと合同で、施設費を出すことになる。ただ、58年9月20日現在、BARIは、ガス工事の着工のための頭金を払い込んだとの情報が入っている。現段階では、ガス工事の完了まで4-5年はかかるとみられている。従って、開学時点まで市ガスが導入されない。実験室では燃料は、ケロシン又はガソリン・パーナー或いは、アセチレンガスを利用する以外にない。この場合は実験器具に問題がでてくる。また、寄宿舎台所の燃料も、何を利用するかで、台所の利用方法が異ってくる。即ち、薪である外にカマドを新設しなければならないし、衛生上の問題もでてくる。又、その他の市ガス以外の燃料では、台所の燃焼装置等も改めなければならない。

市ガス導入は、重要なポイントであるので、「バ」政府にも、この対応推進については今後とも、積極的に働きかけていく必要がある。

⑨ 外壁：調査時点では、管理棟等の周辺を囲む仮設柵が設置中であつた。これは「バ」側の責任においてなされるもので、58年9月現在外壁は未完成である。

⑩ その他：大学の正門、構内の植木、花壇、国旗掲揚塔(3基：バングラデシュ、日本、カレッジの旗)の建設は58年9月時点未了である。

殊に国旗掲揚塔は、開学の儀式に必要不可欠なものであり、これが完成しないと開学にならないものと考えられる。

⑪ 資機材等：日本政府により無償供与された資機材等は別添資料10-3に示す。10-3のリストは供与計画であるが、実際の供与も殆どこの計画に沿って行われた。ただ、品

品目は変わらないが個数に若干の変動はあった。即ち、小さな品目例えば、ビーカーの個数などが少し変わっている。なお、日本政府から無償供与された車輛は、次のとおり。

| 車種 | 型式 | 台数 |
|--------|--------------|----|
| マイクロバス | 26人乗 | 2台 |
| ミニバス | 9人乗 | 2台 |
| 乗用車 | スターレット1000cc | 2台 |
| ピックアップ | 0.5屯 | 2台 |

⑫ 敷地及び農場用地：大学の敷地は、約144エーカー（約58.4ha）の国有地であって、現在民有地の買収済及び買収可能地をいれると、約150エーカー（約60.6ha）となる。（図4参照）地形は一般に平坦で広い国有地の間に民有地が入りまじっている。国有地は凡て以前は灌木林であったもので、学校建設用に建物、周辺の約17haは伐開整地されている。然し大学敷地の国有地の大部分は未だ灌木林である。農場用地に予定されているのは、大学施設の北側にある地域で、現在こゝも灌木林である。図4に示されているように、国有地の中に民有地が入りこんでいるが、これらの民有地は、国有地よりも明かに地形的に低い土地で、雨水などの滞溜により水溜りができ易いので、これら低地を均平にして水稲作が行われている。そのため、買収も仲々困難のようである。農場用地に、低平な地形の民有地買収が困難であると考えられるので、現在の灌木林地帯のみが農場用地と推定されるが、これらの土地は地形的に民有地よりも高いので乾季の水田利用のためには僅かな面積しか乾季の水田として確保できないものと予想される。4月時点では圃場計画もなく圃場関係は全く手がつけられていなかった。

7. BCAS設立のためのバングラデシュ政府の予算準備

バングラデシュ政府は財政難の中から、本学建設のための予算を良く捻出してきた。本学建設期間の82/83の間に準備した予算及び83/84の運営のために準備した予算は表9、10のとおりである。

（注）本学建設期間の82/83の間に準備した予算及び83/84の運営のために準備した予算は表9、10のとおりである。

表9 BCAS 予算 (1982年7月～1983年6月)

(ラークタカ=10万タカ)

1) 収入

| | |
|-----------|----------|
| バングラデシュ政府 | 353.37 |
| 外国援助 | 1,677.00 |
| 合計 | 2,030.37 |

2) 支出 (バングラデシュ政府分)

| | |
|------|--------------|
| 関税 | 339.37 |
| 職員俸給 | 1.400 (3ヵ月分) |
| 合計 | 353.37 |

(出所) PCのDr. Alfta Ali よりの聴きとり調査

表10 BCAS 運営予算 (1983年7月～1984年6月)

1) 収入

| | | |
|-----------|-----|----------|
| バングラデシュ政府 | 100 | ラークタカ |
| 外国援助 | 100 | (日本から期待) |
| 合計 | 200 | |

2) 支出

| | |
|------------------|-----|
| (1) 教職員及びスタッフの給料 | 10 |
| (2) 諸手当、謝礼等 | 10 |
| (3) 臨時費 | 25 |
| (4) 関税 | 5 |
| (5) 圃場整備費 | 10 |
| (6) 建設工事費 | 50 |
| 計 | 110 |

(出所) 表9に同じ。但し、支出は58年9月9日外務公電連絡の改訂分を掲載。

ちなみに、ダッカのB・A・Cの8'2/83予算は、5'4ラーク・タカで、うち、学生宿舍建設分(ダッカ市内)14ラーク・タカ、大学運営費40ラーク・タカであった。大学教授の月給は2,000~3,000タカであるとは言え、大学運営には極めて不十分なもので、大学では図書を購入さえ満足にできない状況であり、他の大学教授の話でも、外国に学生や教授が外国に行きたがるのは、外国で多くの文献図書が読めることにもあるとも語っていた。

8. バングラデシュの教育システム

バングラデシュは、1971年12月の独立戦争後建国された新興国である。

独立後は、混乱した教育制度の整備が政府の主要な関心事であったが、1974年に国家教育委員会(National Education Commission)が設置され、1977年に同委員会の下に国家カリキュラム委員会(National Curriculum Committee)が設けられ、勤労教育、人民教育を原則とした第1学年から第12学年までの初等中等教育のカリキュラムの改訂が行われた。

改訂後のバングラデシュ国の教育の主要な目標は、①文盲の根絶、②初等教育の普及と社会の脱落者や文盲成人のための教育、③人口問題及び環境問題についての教育、④職業、技術及び科学教育、⑤女性に対する教育の強化拡大を促進することにある。

バングラデシュの人口は8,850万人(1981年)、その密度は平方マイル当り1,400人、回教徒の割合は83.21%、男性の文盲率66.5%、女性のそれは88.6%といわれる(A Hand Book of Education Statistics of Bangladesh-1983)。

バングラデシュは既述のように、独立後、第1次5ヵ年計画(1973~1978)、その見直し(1978~1980)、および、第2次5ヵ年計画(1980~1985)によって行政が行なわれている。この間の教育関係予算の全国家予算に占める割合は次第に低下し、1972~1974年頃は20%以上であったが1981~1982年では11.6%になっている(表11)。

しかもこの文教予算の配分を年次計画別に検討すると、第1次5ヵ年計画と第2次5ヵ年計画における教育の方針が大きく変化していることが伺える。即ち、第1次5ヵ年計画では初等教育に17.9%が割当てられていたが、第2次計画では4.10%と大巾に増加しているのに対し、大学教育では10.9%から5.9%へと大巾に減少している(表12)。

表11 Revenue Expenditure on Education to total Revenue Expenditure of the Govt. of Bangladesh, 1972-73 to 1980-81.

| Year | Current Expenditure on Education (Taka, crore) | total Current Expenditure (Taka crore) | (1)/(2) per cent |
|----------------|--|--|------------------|
| 1972-73 | 45 | 213 | 20.1 |
| 1973-74 | 65 | 318 | 20.4 |
| 1974-75 | 83 | 528 | 15.7 |
| 1975-76 | 84 | 528 | 14.4 |
| 1976-77 | 99 | 708 | 14.0 |
| 1977-78 | 136 | 965 | 14.1 |
| 1978-79 | 139 | 974 | 14.3 |
| 1979-80 | 177 | 1,250 | 14.2 |
| 1980-81 (R.E.) | 210 | 1,480 | 14.2 |
| 1981-82 (R.E.) | 224 | 1,936 | 11.6 |
| 1982-83 (B.E.) | 231 | 2,072 | 11.1 |

Note: R.E. = Revised Estimates
B.E. = Budget Estimate

注: Taka (Tk.) = 約10円、Lakh (Lac) = 10万、Crore = 1,000万

表12 Percentage Allocation to Different subsectors of Education in Bangladesh

| Sub-Sectors | First five Year Plan period (1973-78) | Two Year Plan period (1978-80) | Second Five Year Plan period (1980-85) |
|--------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------|--|
| Primary Education | 17.9 | 13.2 | 41.0 |
| Secondary Education | 18.6 | 17.0 | 18.5 |
| College Education | 7.7 | 8.1 | 5.3 |
| Teacher Education | 5.0 | 7.4 | 2.9 |
| Technical Education | 15.5 | 22.8 | 7.4 |
| University Education | 10.9 | 13.1 | 5.9 |
| Sports and Cultural Activities | 4.7 | 13.1 | - |
| Others | 20.0 | 5.3 | 19.0 |

Source: i. government of Bangladesh, Planning Commission, The Two-year Plan, 1978-80.

ii. Government of Bangladesh, Planning Commission, The Second five Year Plan, 1980-85.

現在のバングラデシュにとって、初等教育が極めて重要なことは誰の目にも明らかなことであるが、限られた国家予算のうち、大学関係予算の割合が、これ程急激に削減されると、果して十分な大学教育が成り立つかどうか、危惧の念を持たざるを得ない。

バングラデシュの人口は年々急激に増加（年3%以上、1971～1981年の10年間に20%増）しているにもかかわらず、大学数、大学生数、教師数などの伸びは必ずしもそれに伴って増加しているとはいえない。第2次5ヵ年計画期間中には大学教育が更に一層沈滞する可能性が心配される。

バングラデシュの現行の学校教育制度は、大別すると、初等（Primary）、中等（Secondary）、高等（Higher）の三つの教育段階から成っている（表1参照）。

一般的には、初等教育は小学校（Primary School 5年）、中等教育は中学校（Junior Secondary School 3年、Secondary School 2年、Higher Secondary School 2年）及び中間カレッジ（Intermediate College）、高等教育は学位カレッジ（Degree College）及び大学（University）において行われている。

この他、宗教省管下の初等教育から高等教育に至るイスラム教育のための宗教教育機関（Madrasa Education）がある。

(1) 初等教育は、

初等教育は、5才から始まり、第1学年から第5学年までの5年間である。

初等教育の第一の目標は、文盲をなくすための識字教育にある。バングラデシュ教育情報統計局（Bangladesh Bureau of Educational Information and Statistics (BANBEIS)）の1983年版資料によると、1981年現在の文盲率は、男66.5パーセント、女88.6パーセントである。

小学校では、各学年ごとに毎年1回共通試験が行われ、全教科について合格しなければ上級学年に進級できない。ただし、第5学年修了時には共通試験はなく、卒業証書の授与は、各学校長（Head teacher）の裁量に委ねられている。

なお、第5学年の終りに、各郡教育事務所（Thana Education Office）によって行われる奨学生採用試験があり、成績優秀な生徒には、政府から奨学金（Merit Scholarship）が与えられる。

1983年現在、小学校の学校数は全国で40,926校（公立36,555校、私立4,371校）、教員数は164,358人、生徒数は8,285,807人である（表1.4参照）。

公立小学校の教育は無償であるが、就学率は、67パーセントで、宗教、社会的因襲、貧困などの問題から中途退学者が非常に多く、小学校を卒業できる者は、入学者の25パーセント程度であるという。

(2) 中等教育

中等教育は、第6学年から第12学年までの7年間で、初級中等 (Junior Secondary)、中等 (Secondary)、上級中等 (Higher Secondary) の三つの教育段階に分けられる。

通常、初級中学校 (Junior High School) では、第6学年から第8学年までの3年間、中学校 (High School) では、第6学年から第10学年までの5年間、中間カレッジでは、第11学年及び第12学年の2年間の中等教育が行われている。また、学位カレッジの中間課程でも第11、12学年の2年間の上級中等教育が行われている。

中等教育は、第8学年までは基礎的な一般教育段階として全国共通のカリキュラムで実施されている。この段階までは公的な進級試験は行われていないが、各学校ごとに独自に各学年ごとの試験を行い、一定の点数をとれば進級できることになっている。

奨学生採用については、全国規模の選考試験が毎年実施されており、成績優秀な者には奨学金 (Merit Scholarship) が与えられる。

第9学年からはカリキュラムが多様化し、理科系 (Science)、商業系 (Commerce)、人文系 (Humanities)、職業系 (Vocations) の各課程に分かれる。

第10学年修了時に全国統一の卒業認定試験 (Secondary School Certificate (S.S.C)) が行われ、合格者には上級中等教育段階への進学資格が与えられる。

また、第12学年修了時にも卒業認定の国家試験 (Higher Secondary Certificate (H.S.C)) が行われ、その成績によって大学等高等教育機関への進学の資格が与えられる。

最近、中等教育段階においても科学教育が重視され、S.S.C. 及び H.S.C. における科学分野の合格者が増加している。(表3、表4参照)

1983年現在の中等教育機関の全学校数は、8,875校 (公立176校、私立8,699校)、教員は9,596人、生徒数は2,191,098人である (表17、表18、表19参照)。

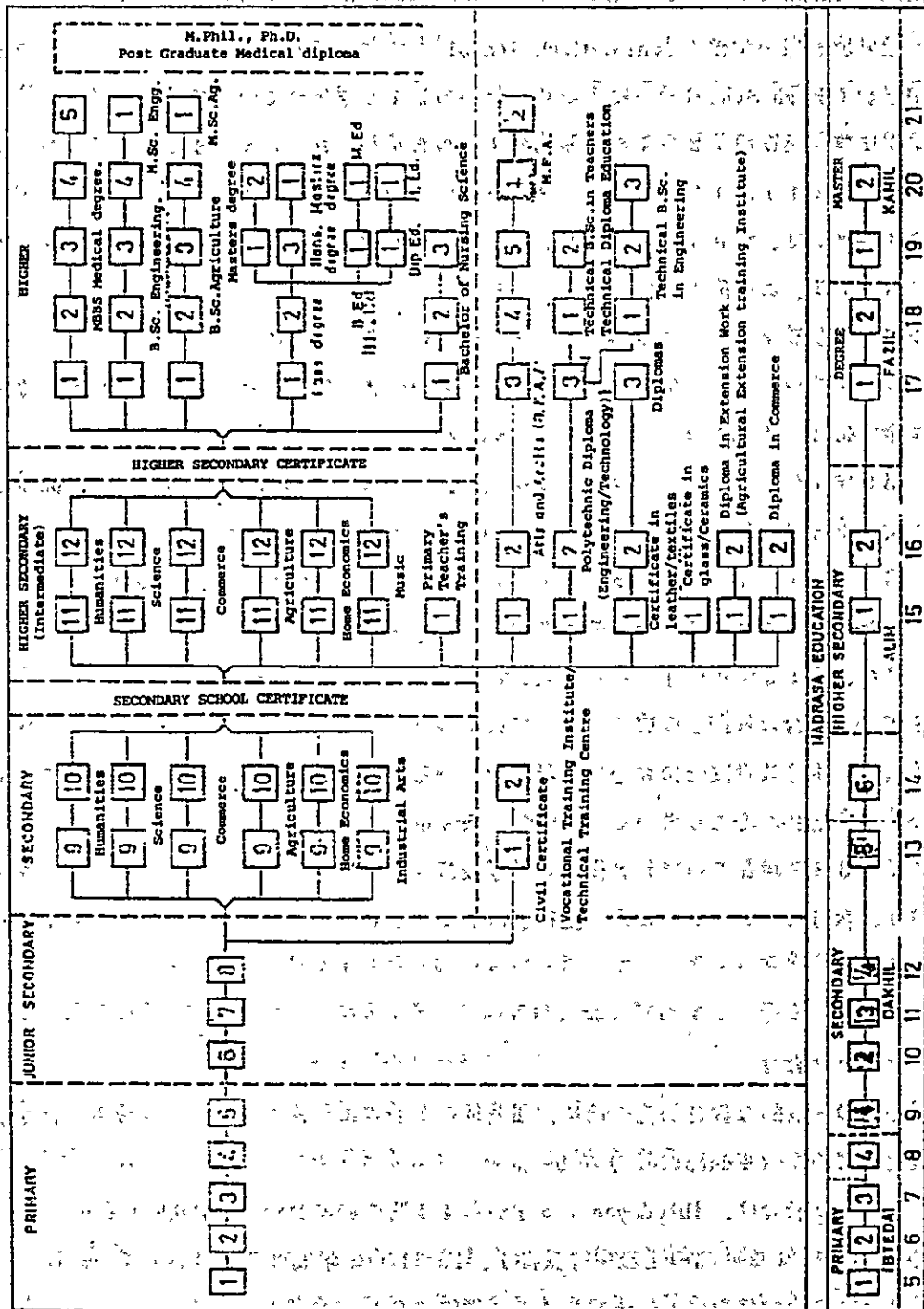
(3) マドラサ教育

上述の一般的な教育制度の他に、回教徒の青少年に伝統的なイスラム教育を行う宗教教育制度 (Madrasa Education) がある。

マドラサ教育は、Ibtedayee (5才から4年間の初等教育)、Dakhil (6年間の中等教育)、Alim (2年間の上級中等教育)、Fazil (2年間の高等教育 (学士課程))、Kamil (2年間の大学院教育 (修士課程)) の各段階に分かれている。

マドラサの学校は、ほとんどが私立で (表8参照)、アラビア語による教育が中心であるが、卒業後社会人としての生活に支障がないよう、ベンガル語、英語、ベルシヤ語などによる教育も行なえるよう配慮されている。

表 13. バングラデシムの教育システム



Source: Bangladesh Bureau of Educational Information & Statistics.

表 14 Number of Primary Schools

| Type | Number of Primary Schools |
|------------------------|---------------------------------|
| Government | 36,555 (Sanctioned ; 36,666) |
| Non-Government (Regd.) | 4,371 |
| Total : | 40,926 |

Number of Teachers

| Type | Number of Teachers | | |
|-------------------------|--------------------|----------------|---------------|
| | Total | Male | Female |
| Government | 145,377 | 133,765 | 11,612 |
| Nong-Government (Regd.) | 18,981 | 17,560 | 1,421 |
| Total : | 164,358 | 151,325 | 13,033 |

Number of Students

| | Number of Students | | |
|------------------------|--------------------|------------------|------------------|
| | Total | Boys | Girls |
| Government | 7,358,829 | 4,372,992 | 2,985,837 |
| Non-Government (Regd.) | 926,978 | 575,826 | 351,152 |
| Total : | 8,285,807 | 4,948,818 | 3,336,980 |

(A Hand Book of Educational Statistics of Bangladesh, 1983 by BANBEIS)

表 15 1982年の中学校及び高等学校の卒業生数

Output of Secondary (S.S.C.) and Higher Secondary (H.S.C.) for combined Boards by Group, 1982.

| | Secondary (S.S.C.) | | | Higher Secondary (H.S.C.) | | |
|----------------|--------------------|----------------|--------------|---------------------------|---------------|--------------|
| | Appeared | Passed | % of Pass | Appeared | Passed | % of Pass |
| Humanities | 130,790 | 62,387 | 47.70 | 50,797 | 12,278 | 24.17 |
| Science | 69,863 | 53,807 | 77.02 | 45,811 | 15,750 | 34.38 |
| Commerce | 44,969 | 26,297 | 58.48 | 25,164 | 6,817 | 27.09 |
| Others | 22,380 | 13,987 | 62.50 | 4,017 | 798 | 19.87 |
| Total : | 268,002 | 156,478 | 58.40 | 125,789 | 35,643 | 28.34 |

表 16. Comparative output statistics in science for selected years
of Secondary school certificate (S.S.C.) Examination

| Year | Total Passed | Total Passed in Science | % of pass in Science |
|------|--------------|-------------------------|----------------------|
| 1970 | 147,227 | 20,705 | 14.06 |
| 1975 | 84,023 | 30,447 | 30.30 |
| 1980 | 117,594 | 41,527 | 35.31 |
| 1982 | 156,478 | 53,807 | 34.39 |

Comparative output statistics in Science for selected years of Higher
Secondary Certificate (H.S.C.)

| Year | Total passed | Total Passed in Science | % of pass in Science |
|------|--------------|-------------------------|----------------------|
| 1970 | 53,344 | 11,459 | 21.43 |
| 1975 | 43,077 | 15,901 | 36.91 |
| 1980 | 62,391 | 26,361 | 42.25 |
| 1982 | 35,643 | 15,750 | 44.19 |

表 17 Number of Junior High Schools

| Type | Number of Junior High Schools |
|------------------------|-------------------------------|
| Government | Nil |
| Non-Government (Regd.) | 2,009 |
| Total : | 2,009 |

Number of Teachers

| Type | Number of Teachers |
|------------------------|--------------------|
| Government | Nil |
| Non-Government (Regd.) | 12,314 |
| Total : | 12,314 |

| Type | Number of Students |
|------------------------|--------------------|
| government | Nil |
| Non-Government (Regd.) | 223,984 |
| Total : | 223,984 |

表 18 Number of High Schools

| Type | Number of High Schools |
|------------------------|------------------------|
| Government | 173 |
| Non-Government (Regd.) | 6,480 |
| Total : | 6,653 |

Number of Teachers

| Type | Number of Teachers | | |
|------------------------|--------------------|--------|--------|
| | Total | Male | Female |
| Government | 8,600 | - | - |
| Non-Government (Regd.) | 72,927 | 67,476 | 5,451 |
| Total : | 81,527 | | |

Number of Students

| Type | Number of Students | | |
|------------------------|--------------------|-----------|---------|
| | Total | Boys | Girls |
| Government | 92,421 | - | - |
| Non-Government (Regd.) | 1,838,836 | 1,342,715 | 496,121 |
| Total : | 1,931,257 | | |

表 19 Number of Intermediate Colleges

| Type | Number of Intermediate |
|------------------------|------------------------|
| Government | 3 |
| Non-Government (Regd.) | 210 |
| Total : | 213 |

Number of Teachers

| Type | Number of Teachers | | |
|----------------|--------------------|-------|--------|
| | Total | Male | Female |
| Government | 30 | - | - |
| Non-government | 2,096 | 1,930 | 166 |
| Total : | 2,125 | | |

Number of Students

| Type | Number of Students | | |
|------------------------|--------------------|--------|--------|
| | Total | Male | Female |
| Government | 167 | - | - |
| Non-government (Regd.) | 35,240 | 29,832 | 5,408 |
| Total : | 35,857 | | |

表 20. Number of Madrasahs

| Type | Number of Madrasahs | | | |
|----------------|---------------------|------|-------|-------|
| | Dakhil | Alim | Fazil | Kamil |
| Government | - | - | - | - |
| Non-Government | 1,361 | 452 | 575 | 60 |
| Total : | 1,361 | 452 | 575 | 60 |

Number of Teachers

| Type | Number of Teachers | | | |
|----------------|--------------------|-------|-------|-------|
| | Dakhil | Alim | Fazil | Kamil |
| Government | - | - | - | 86 |
| Non-Government | 11,910 | 5,218 | 8,152 | 1,296 |
| Total : | 11,910 | 5,218 | 8,152 | 1,382 |

Number of Students

| Type | Number of Students | | | |
|----------------|--------------------|--------|---------|--------|
| | Dakhil | Alim | Fazil | Kamil |
| Government | - | - | - | 750 |
| Non-government | 200,753 | 79,826 | 127,171 | 21,562 |
| Total : | 200,753 | 79,826 | 127,171 | 22,312 |

(4) 高等教育

この9千万に近い人口を持つバングラデシュに University と名の付く大学はわずか7校(表2.1)あるのみである。

表 2.1

UNIVERSITIES IN BANGLADESH

| | |
|--|------------|
| University of Dhaka (Estd. 1921) | (D.U.) |
| University of Rajshahi (Estd. 1953) | (R.U.) |
| Bangladesh Agricultural University (Estd. 1961) | (B.A.U.) |
| Bangladesh University of Engineering and Technology (Estd. 1961) | (B.U.E.T.) |
| University of Chittagong (Estd. 1966) | (C.U.) |
| Jahangirnagar University (Estd. 1970) | (J.U.) |
| Islamic University (Estd. 1981) | (I.U.) |

7校のうち、1981年に設立された Islamic University は、1983年4月現在においてもまだアカデミックには機能していない。

これらの大学に学んでいる学生総数はわずか36,530人であり、その内わけは、一般大学31,101人、農業大学3,046人、工業大学2,383人である。また、これら大学の総教官数も2,421人にすぎない(表2.2)。

バングラデシュでは、高等教育以前の課程として、既述のように Primary (5年)、Junior Secondary (3年)、Secondary (2年)、および Higher Secondary (2年)がある。Higher Secondary (Intermediate) の2年の課程では Humanities、Science、Commerce、Agriculture、Home Economics、Music などのグループがあり、その他、1年課程の Primary teachers training がある。この Higher Secondary に相当する年代の職業課程として別に Agriculture (extension)、Leather technology、Printing & graphic arts および Nursing などの教育施設があり、これらの大部分は2年の課程である。

Higher Secondary の課程を終えた学生は、Higher Secondary Certificate (H.S.C.) の資格を得るため Board of Intermediate and Secondary Education (独立の政府機関で各州に設置) の実施する試験を受け、それに合格した学生は更に高等な教育機関 (University、College など) へ進学することができる(図5)

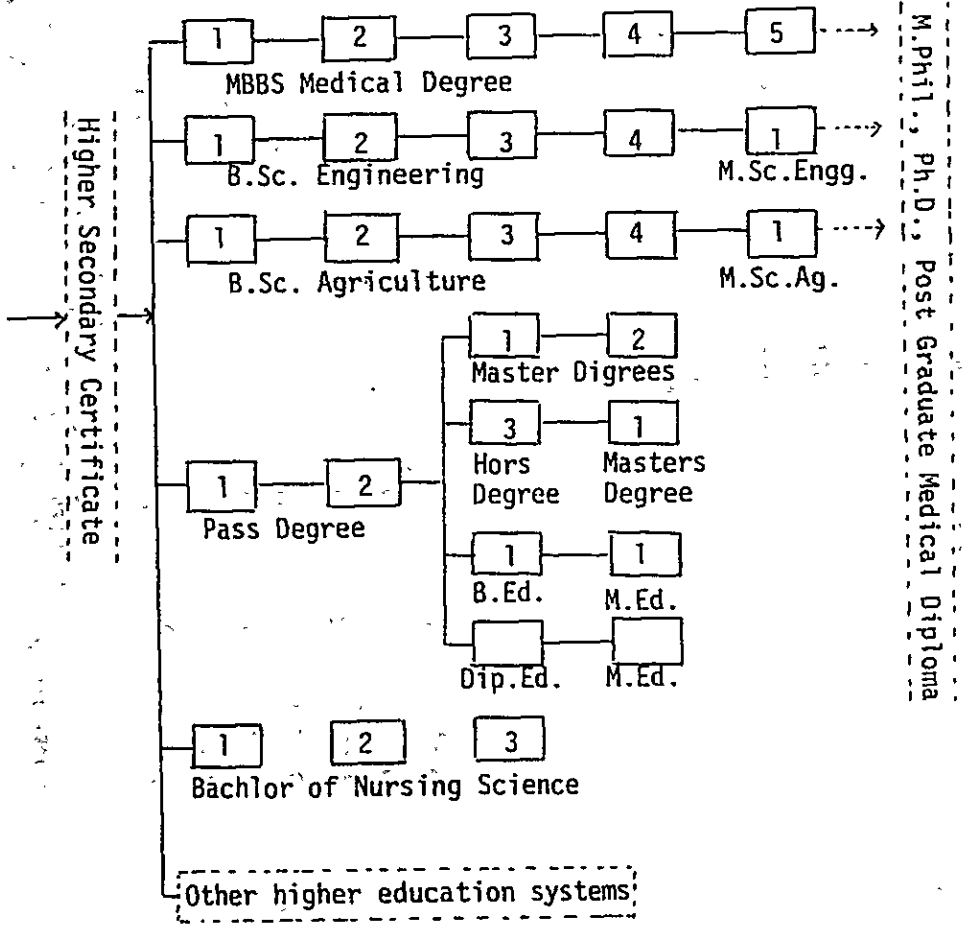
表- 22 . University Education, 1983

| Type of Universities | Number of Universities | Number of Teachers | Number of Students |
|----------------------|--|--------------------|--------------------|
| General Universities | 1. University of Dhaka | 1,813 | 31,101 |
| | 2. University of Chittagong | | |
| | 3. University of Rajshahi | | |
| | 4. Jahangirnagar University | | |
| Agricultural | 5. Bangladesh Agricultural University | 354 | 3,046 |
| engineering | 6. Bangladesh University of Engineering and Technology | 254 | 2,383 |
| | Total | 2,421 | 36,530 |

表 2.2 UNIVERSITY EDUCATION 1983

| Type of Universities | Number of Universities | Number of Teachers | Number of Students |
|-----------------------|--|--------------------|--------------------|
| General Universities: | 1. University of Dhaka | | 31,101 |
| | 2. University of Chittagong | 1813 | |
| | 3. University of Rajshahi | | |
| | 4. Jahangirnagar University | | |
| Agricultural | 5. Bangladesh Agricultural University | 354 | 3046 |
| Engineering | 6. Bangladesh University of Engineering and Technology | 254 | 2383 |
| Total : | | 2421 | 36,530 |

图 5 Higher education system in Bangladesh



試験の合格者は成績によって3階級(1st Class、2nd Class、3rd Class)に分けられ、1st Classと一部の2nd Classの卒業生のみが大学のHonours Courseに進学することができ、その他はPass CourseまたはCollegeに進学する。

一般大学ではHonours Courseの3年の課程を終了した後、試験に合格するとB.Sc(Honours)の称号が与えられ、更にMaster Courseに進学して1年在学後、試験に合格するとM.Scが与えられる。各種の高等教育の課程を終えて与えられる称号、資格、および認定書には専門分野および学校の違いによって多種類のものがあり、複雑である(詳細は"Education System of Bangladesh": Bangladesh Bureau of Educational Information and Statistics発行、参照のこと。

バングラデシュの高等教育制度は複雑(図5)であるが、その頂点に前記の6大学がある。これら6大学の規模や内容の概略は表23、24および25によって比較することができる。

表 2.3 Important informations of the universities in Bangladesh, 1980

| University | No. of Faculties | No. of Departments | No. of Institutes | No. of affiliated colleges | No. of students (Foreigner) | No. of teachers On duty | No. of officers and staff | Teacher student ratio | No. of working day | |
|------------|------------------|--------------------|-------------------|----------------------------|-----------------------------|-------------------------|---------------------------|-----------------------|--------------------|-----|
| D.U. | 6 | 36 | 6 | 151 | 14,576(46) | 59 | 240 | 2,320 | 1:17.17 | 243 |
| R.U. | 4 | 26 | 1 | 107 | 9,997(5) | 89 | 122 | 1,377 | 1:23.52 | 236 |
| B.A.U. | 6 | 40 | 1 | 1 | 3,046(35) | 30 | 156 | 1,767 | 1:8.6 | 202 |
| B.U.E.T. | 3 | 13 | 1 | - | 2,383(21) | 92 | 66 | 760 | 1:9.38 | 227 |
| C.U. | 4 | 20 | 2 | 80 | 5,270(8) | 36 | 96 | 1,095 | 1:14.89 | 222 |
| J.U. | 3 | 10 | - | - | 1,258 | 113 | 37 | 500 | 1:8.38 | 228 |
| Total | 26 | 145 | 11 | 339 | 36,530(115) | 2043 | 681 | 7,819 | 1:15.31 | - |

表 2.4 Distribution of teachers by grade & higher academic qualifications by university, 1980

| University | No. of teachers | Higher academic qualification | | | | | | |
|------------|-----------------|-------------------------------|---------------------|---------------------|----------|----|-----|-----|
| | | Professor | Associate Professor | Assistant Professor | Lecturer | | | |
| D.U. | 849 | 84 | 184 | 286 | 243 | 52 | 275 | 94 |
| R.U. | 425 | 35 | 63 | 220 | 99 | 8 | 92 | 43 |
| C.U. | 354 | 17 | 46 | 161 | 130 | - | 42 | 39 |
| J.U. | 150 | 16 | 16 | 55 | 63 | - | 35 | 20 |
| B.A.U. | 354 | 29 | 62 | 208 | 55 | - | 104 | 45 |
| B.U.E.T. | 254 | 26 | 22 | 105 | 101 | - | 41 | 22 |
| Total | 2,386 | 207 | 393 | 1,035 | 691 | 60 | 589 | 263 |

表 25 Enrolment by sex in the Universities of Bangladesh, 1976 to 1980

| Year | D.U. | | R.U. | | C.U. | | J.U. | | B.A.U. | | B.U.E.T. | |
|------|------|---|------|---|------|---|------|---|--------|---|----------|---|
| | M | F | M | F | M | F | M | F | M | F | M | F |
| 1976 | 3 | 1 | 5.5 | 1 | 5.5 | 1 | 9.9 | 1 | 34 | 1 | 124 | 1 |
| 1977 | 3 | 1 | 5.5 | 1 | 5.4 | 1 | 9.3 | 1 | 29 | 1 | 67 | 1 |
| 1978 | 2.8 | 1 | 5.5 | 1 | 4.5 | 1 | 7.8 | 1 | 30 | 1 | 39 | 1 |
| 1979 | 2.7 | 1 | 5 | 1 | 4.7 | 1 | 6 | 1 | 27 | 1 | 30 | 1 |
| 1980 | 2.6 | 1 | 4.9 | 1 | 5 | 1 | 5.3 | 1 | 28 | 1 | 26 | 1 |

9. バングラデシュの既存大学の状況

(1) 一般状況

6大学のうちDacca Univ. (D.U.) は6学部、36学科から成り、教官数、学生数は他大学に比較して最も多く、また、6研究所と151の提携単科大学を持ち、最大の規模を誇っている。Rajshahi Univ. (R.U.) および Chittagong Univ. (C.U.) も Dacca Univ. に似た一般大学であり、他の専門大学に較べて、学生数、教師数、提携している単科大学数などが多い。男子学生の女子学生に対する比率は、一般大学よりも専門大学で特に高い(表25)。Bangladesh Agricultural Univ. (B.A.U.) は、バングラデシュにおける唯一の農業大学であり、6学部、40学科から成っているが、その提携単科大学は Bangladesh Agricultural College (B.A.C.) 1校だけである。

これらの大学(University)はいずれも自治組織(Autonomous organization)であり、その運営は、同じく自治組織である University Grant Commission (U.G.C.) から配分される予算で大部分がまかなわれている。1974~1980年における各大学の予算を示したのが表26である。表27はこの予算を学生1人当りの経費に換算したものである。

J.U. と B.A.U. とは他学に比較し、予算的にはやや恵まれているようである。

バングラデシュには、上記6大学の外、多数の単科大学(College)がある。これらすべていずれかの大学と提携しており、学問的にコントロールされている。しかし、それぞれの単科大学は組織的には専門分野に従って異なる省庁に属している。例えば Medical Colleges は厚生省、Engineering College は文部省、Agricultural College は農業省の組織である。

表-26 Annual budget (Recurring) of the Universities, 1974-80

| Year | D.U. | R.U. | C.U. | J.U. | B.A.U. | B.U E.T | All total |
|------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|----------------------|
| 1974 | 238.60 (197.48) | 167.58 (131.63) | 100.85 (82.63) | 52.22 (51.98) | 14.384 (123.66) | 88.04 (80.71) | 791.13 (667.77) |
| 1975 | 298.96 (235.06) | 188.63 (145.77) | 102.54 (93.04) | 67.73 (57.89) | 156.43 (138.18) | 105.22 (91.49) | 919.51 (761.43) |
| 1976 | 382.52 (315.06) | 223.93 (166.87) | 128.97 (103.89) | 82.49 (73.29) | 187.90 (166.03) | 123.81 (113.00) | 1129.62 (938.14) |
| 1977 | 445.70 (359.06) | 261.57 (202.26) | 167.99 (148.84) | 95.67 (89.17) | 225.74 (204.86) | 133.28 (113.00) | 1329.25 (1117.00) |
| 1978 | 504.10 (445.39) | 293.99 (230.46) | 215.18 (118.84) | 115.38 (111.26) | 259.10 (236.81) | 152.10 (139.24) | 1540.58 (1353.00) |
| 1979 | 723.60 (625.60) | 404.57 (344.57) | 297.20 (271.20) | 149.20 (143.20) | 384.83 (358.33) | 211.60 (205.10) | 2171.00 (1975.00) |
| 1980 | 786.50 (709.00) | 453.44 (385.00) | 365.63 (338.00) | 492.26 (184.00) | 438.00 (402.00) | 245.69 (235.00) | 2481.56 (2253.00) |

表-27 Gross Recurring Expenditure per Student per Annum
1973 to 1980

| Year | D.U. | R.U. | C.U. | J.U. | B.A.U. | B.U.E.T. |
|------|-------|-------|-------|--------|--------|----------|
| 1973 | 1,209 | 3,136 | 2,823 | 15,590 | 4,322 | 5,723 |
| 1974 | 2,225 | 2,195 | 3,386 | 7,228 | 6,030 | 5,326 |
| 1975 | 2,691 | 2,728 | 4,050 | 10,040 | 8,630 | 6,260 |
| 1976 | | | | | | |
| 1977 | 4,174 | 3,788 | 6,968 | 10,863 | 15,188 | 9,125 |
| 1978 | 5,580 | 5,213 | 9,556 | 13,676 | 15,981 | 11,196 |
| 1979 | 6,441 | 5,411 | 8,219 | 17,076 | 19,077 | 10,978 |
| 1980 | 5,694 | 4,652 | 7,192 | 16,191 | 14,890 | 10,737 |

これらの単科大学の規模、内容の詳細については統計資料に見当らず不明である。農業関係の単科大学としてはBACI校のみであり、調査団はその施設、備品、教師の陣容などを調査したが、あらゆる点で質的に高いとは言えず、そのレベルはわが国の高等学校程度或はそれ以下にあるように思われた。バングラデシュではむしろ陽の当たっているはずの農業関係単科大学がこのような状況にあることから類推して、他の単科大学の教育程度もほぼ推定することができる。専門別単科大学数、教官数および学生数は、表28に示されている。

表28 Numbers of Teachers and Students
in Bangladesh (1983)

| | No. of Schools | No. of Teachers | No. of Students |
|----------------------|-------------------|---------------------|--------------------------|
| Primary School | 40,926 (4,371) | 164,357 (18,981) | 8,282,807 926,978 |
| Junior High School | 2,009 | 12,314 | 223,984 |
| High School | 6,653 (6,480) | 81,527 (72,927) | 1,931,257 (1,838,836) |
| Intermediate College | 210 (210) | 2,125 (2,096) | 35,857 (35,240) |
| Degree College | 343 (238) | 9,865 (6,365) | 231,255 (136,328) |
| Medical College | 8 | 724 | 10,272 |
| Dental College | 1 | 34 | 247 |
| Engineering College | 4 | 152 | 1,709 |
| Agricultural College | 1 | 58 | 397 |
| Law College | (22) | (201) | (5,606) |
| Homeopathic College | (18) | (189) | (2,829) |
| * Madrasahs: Dakhil | (1361) | (11,910) | (200,753) |
| Alim | (452) | (5,214) | (79,826) |
| Fazil | (575) | (8,152) | (127,171) |
| Kamil | 2 (62) | 86 (1,296) | 750 (21,562) |

() : Private School

* : Moslem education system

これらの単科大学はいずれも理想的に運営されているわけではなく、むしろ問題は山積しているようである。1980～1981年の期間に4校の工業単科大学が財政難と運営の失敗によって閉鎖のやむなきに至り、現在もあらゆる機能が停止している状況である。

(2) 大学卒業生の資格、学位の取得と進学および就職の状況

大学や単科大学の卒業生はそれぞれの専門に応じた資格を得るために、各大学の行なう試験に合格しなければならない。1980年度の各分野別の受験者数と合格者数とを示したものが表1である。Agriculture、EngineeringおよびTeacher's Trainingの分野では合格率が90%を越えているが、その他の分野では決して高いとはいえない。

表29 Output of Graduates and Post-Graduates for combined Universities by sector of Education, 1980.

| Sector of Education | Appeared | Passed | % of pass |
|----------------------|---------------|---------------|--------------|
| Arts | 29,918 | 11,933 | 39.89 |
| Science (Total) | 13,339 | 8,026 | 60.17 |
| General | 10,922 | 6,390 | 58.51 |
| Agricultural | 309 | 292 | 94.50 |
| Engineering | 552 | 512 | 92.75 |
| Medical | 1,556 | 832 | 53.47 |
| Commerce | 10,707 | 4,767 | 44.49 |
| Law | 917 | 765 | 83.42 |
| Teachers' Training | 1,420 | 1,389 | 97.82 |
| Diploma/M. Phil/Ph.D | 249 | 220 | 88.35 |
| Total : | 56,550 | 27,100 | 47.97 |

卒業生の就職に関するデータは統計資料中に見当らず、また、大学関係者からも正確な返答は得られなかった。しかし、1983年1月29日に文部大臣が提案した“New Proposal for Education Principle and Management”によれば一般に卒業生の就職率は極めて悪く、情勢は極めて酷いようである。ただ、農林省関係者の話では農業大学(BAUおよびBAC)の卒業生の就職率は比較的良好で、大部分が公務員に採用されているようである。

(3) Bangladesh Agricultural University (B.A.U.)

(i) 教授陣等

Daccaの北方約160 Kmのマイメンシ市郊外に設置されているこのB.A.Uは、 Bangladeshで唯一の農業大学である。1961年にEast Pakistan Agricultural Universityとして設立され、Bangladeshに独立直後の1972年に現在のB.A.Uに改名されたものである。キャンパスの面積1,080エーカー以上、6学部(表30)の40学科から成り、表35に示すように教授34名、準教授69名、助教授213名、講師78名を

表30

Faculties of Bangladesh Agricultural University

Agriculture

Agricultural Economics and Rural Sociology

Agricultural Engineering

Animal Husbandry

Dairy Science and Fisheries

Veterinary Sciences

を擁している。米国テキサス大学の約10年間にわたる援助によって名実ともに充実した大学といわれ、教育のうち126名はPh.D.またはそれに相当する資格を有し、また、252名はM.Sc.またはそれに相当する称号を持っている(表35)。

うち、外国の大学で修士を取得した者58名で、全体の23%に達している。彼等はまた博士号を取得するため、外国留学する機会に恵まれているので、博士号取得の比率はさらに高まるであろう。

(ii) 学生の地位

卒業生：学部学生4,754名、修士1,264名、博士：4名で総計6,022名である。

B.A.Uは博士課程があるが、学位の取得は難しく、1961年の創設以来博士号を取得した者は4名にすぎない。優秀な学生は外国に留学し、残った学生の素質は余り優秀ではななく、また実験施設の貧弱で十分な実験ができない等のためである。現在の在籍数は学部学生3,156名、修士442名、博士7名、合計3,605名である。

1979年度の学部別の学生数は表32のようであり、農学部が最も多い。

表 32

Number of students by Faculties of
Bangladesh Agricultural University
(1979)

| | |
|---------------|-------------------------|
| Agr. | 685 |
| Agr. Eco. | 214 |
| Agr. Engg. | 208 |
| Anim. Has. | 224 |
| Fish. | 271 |
| Vet. Sci. | 354 |
| Post Graduate | 340 (Including Ph.D. 2) |
| Total | 2,296 |

B. A. U.には大学院 (Post Graduate Course) があり、大学卒業生の十数%の学生は大学院へ進学する (表 33)。

表 3.3 ENROLLMENT IN THE BANGLADESH AGRICULTURAL UNIVERSITY
BY FACULTY FOR 1977-78, 1978-79 & 1979-80

| Name of Faculty | 1977-78 | | 1978-79 | | 1979-80 | |
|---|---------|---------------|---------|---------------|-----------------------|---------------|
| | Degree | Post-Graduate | Degree | Post-Graduate | Degree | Post-Graduate |
| 1. Agriculture | 658 | 154 | 687 | 132 | 685 311(New) | 143 |
| 2. Animal Husbandry | 420 | 26 | 354 | 34 | 996 224 56(New) | 40 |
| 3. Veterinary Science | 225 | 56 | 224 | 40 | 348 107(New) | 34 |
| 4. Agricultural Engineering and Technology | 248 | 6 | 208 | 1 | 208 106(New) | 1 |
| 5. Agricultural Economics & Rural Sociology | 248 | 88 | 214 | 76 | 214 58(New) | 76 |
| 6. Fisheries | 236 | 41 | 271 | 55 | 271 107(New) | 55 |
| Total : | 2035 | 371 | 1958 | 338 | 2695 | 349 |

* One student was doing Ph.D in Fisheries during 1977-78 as well as in 1978-79.
and two students in 1979-80.

B A Uで得られる称号の種類は表 3 4 の通りであり、各専門毎に B.Sc. または M.Sc.

の学位が与えられる。

表 3 4

Degree of Agriculture in Bangladesh.

B.Sc.(Ag.) Honours : Bachelor of Science (Agriculture) Honours
B.Sc.(A.H.) Honours : Bachelor of Science (Animal Husbandry) Honours
B.Sc.(Fisheries) Honours : Bachelor of Science (Fisheries) Honours
B.Sc.(Ag. Stat.) Honours : Bachelor of Science (Agricultural Statistics) Honours
B.Sc.(Ag. Engg.) Honours : Bachelor of Science (Agricultural Engineering) Honours
B.Sc.(Vet.Sc. & A.B.) Honours : Bachelor of Science (Veterinary Science and Animal Husbandry) Honours

M.Sc.(Ag.Econ.) : Master of Science (Agricultural Economics)

M.Sc. (Ag.) : Master of Science (Agriculture)

M.Sc. (Vet. Sc.) : Master of Science (Veterinary Science)

M.Sc. (Ag. Engg.) : Master of Science (Agricultural Engineering)

M.Sc. (Fisheries) : Master of Science (Fisheries)

Ph.D. : In Agriculture, Chemistry, Animal breeding, Animal nutrition, Crop botany, Fisheries, Microbiology, Psychology, Soil Science, Veterinary Medicine

From Education System of Bangladesh Pub. No.13 published
Bangladesh bureau of Educational Information and Statistics

(III) 施設と予算

同大学は、既述のように米国の援助により施設にかなり整備されており、図書も40,000冊を有し、510種の刊行物を発行している。学生寮として6ホール(表31)あり、2,600人の寮生を収容することができる。

また、224戸の教官用宿舎を持っている。

表 31

Dormitories of Bangladesh Agricultural University

Isha Khan

Ahah Jalal

Shaheed Shamsul Haque

Huseyn Shaheed Suhrawardy Hall

Shaheed Najmul Ahsan Hall

Fazlul Huq Hall

Total 2,600 students

B A Uの経常予算は1982-83会計年度は、8,868万2,000タカである。1980-81年は4,380万タカ(当年度の国の全大学予算の約17.7%)であったから2

倍以上の大幅な増加である。なお、創設資金はアメリカから出されたが、1961年 East Pakistan Agricultural Universityとして創設された時、アメリカの援助は900万ド

ル(うち International Development Agency、現在は World Bank、Credit 280万ドル)であった。当時の360円の為替レートにて換算すると32億4,000万円である。

インフレーションを加算すると日本の20億円の援助の3倍以上に相当する巨額である。

(Texas A & M UniversityからのスタッフのB A Uへの派遣、及びB A Uの教官のTexas A & M 大学での訓練費用を含む)

(IV) 卒業生の就職状況

卒業生の就職状況は改良普及員65%、研究・教育20%、行政10%、雑5%である。農業大学は2校のみであるので農業分野での求人は多く、就職問題は深刻ではない。

(4) Bangladesh Agricultural College (B.A.C. またはB.A.I.)

1938年に Dacca Univ. の提携単科大学として設立され、当時の学生数は1学年当たり20名であったが、その後次第に増加し、現在までに1,675名の卒業生を送り出している。B A Uの設立後、D Uから離れてB A Uの提携校となり今日に及んでいる。従って学問的に

表 3.5 Facts about Bangladesh Agricultural University

(1983年5月現在)

A. TEACHERS' POSITION :

| <u>Number of Teachers</u> | <u>Qualification of Teachers</u> |
|---------------------------|---|
| Professor - 34 | Ph.D. 126 |
| Associate Professor - 69 | M.S. - 58 (from foreign countries) |
| Assistant Professor - 213 | M.Sc - 194 (degree obtained from Bangladesh) |
| Lecturer - 78 | B.Sc. 16 |
| <hr/> Total 394 | <hr/> Total 394 |

B. STUDENTS' POSITION :

| <u>Graduated</u> | <u>Present Enrollment</u> |
|-------------------|---------------------------|
| B.Sc. 4754 | 3156 |
| M.Sc. 1264 | 442 |
| Ph.D. 4 | 7 |
| <hr/> Total: 6022 | <hr/> 3605 |

C. BUDGET OF THE UNIVERSITY:

Tk. 8,86,82,000/= for the fiscal year 1982-83.

D. NATURE OF EMPLOYMENT OF GRADUATES

- 65% Extension job
- 20% Research and Teaching job
- 10% Administration and
- 5% Miscellaneous job.

Source: Dr. Abdual Halim からの聞き取り調査

はBAUにコントロールされているが、農業省の1研究機関 Bangladesh Agricultural Research Institute (B.A.R.I.) に所属する1単科大学と位置づけられている。従来BACが卒業生に与えた称号にはB.Sc.(Agr.)、B.Ag.、B.Sc.Ag.(Hons) などがあるが、同一の称号でも時代と共にその質は変化している。BAC設立当初の面積は650エーカーであったが、その後、都市の発展に伴って次第に侵され、現在では四方が市街に囲まれ、都市の中心部に近く、大学の環境としては不適當となっている。

学科の種類と教官数は表3.6のようであり、これらは1977年以降変化していない。合計58名の教官のうち、Ph.D.を持っている者は1名にすぎない。

表 3.6

Number of teachers of Bangladesh Agricultural College by Department

| Department | No. of teachers |
|--------------------------|-----------------|
| Agronomy | 7 |
| Crop Botant & Botany | 5 |
| Horticulture | 4 |
| Chemistry & Biochemistry | 7 |
| Soil Science | 6 |
| Entomology & Zoology | 6 |
| Plant Pathology | 4 |
| Agricultural Extension | 3 |
| Statistics & Mathematics | 4 |
| Agricultural Economics | 3 |
| Farm Mechanics | 3 |
| Genetic & Plant Breeding | 3 |
| Animal Husbandry | 3 |
| Total | 58 |

BACの施設、備品類は頻弱で到底大学の名に値しない。わが国から供与された機械器具のうち、天秤十数台、オートクレーブ1台、乾熱滅菌器1台、顕微鏡十数台、複写機1台などが配置されていたが、顕微鏡、オートクレーブ以外は十分に機能しているように見られなかった。学生寮としては4ホールを持っており、大部分の学生を収容している。(表37)(現在学生数416人中404人が寮生)。

表 37

Dormitories of B.A.C.

Sher-e-Bangla Hall

Siraj-ud-Doula Hall

Nazrul Islam Hall

Women Hall

Total no. of students in Dormitories at present

404.

BACはBAUの提携校であり従って、カリキュラムはすべてBAUのそれに従っているとされる。然し、その設備および教官の陣容からみて全く疑問であり、どのようなレベルの教育が行われているかは不明である。

卒業試験は文部省大学局の所管でBAUが担当して実施し、B.Sc.Agr. (Honours)が与えられる。更に2年間の大学院(BAU)に進み論文が完成すれば、指導教官と他1名の審査によりマーク方式でなくM.Sc. (Ag.)が授与されている。現在までの総卒業生1,675名のうち約300名がM.Ag.またはM.Sc. (Ag.)を得ている。

BACは設立以来歴史が古く、有能な卒業生の多くが政府の重要なポストを占めているといわれる。従って卒業生の就職状況は良好で、就職先は公務員(試験研究機関、行政および普及、教育機関)として約80%、銀行10%、企業10%である。

1980年から始まった第2次5ヵ年計画には農業普及組織拡充のため約3,000名の農業技術者が新に要求されており、BACおよびBAUの卒業生に関する限り、就職については当分心配なさそうである。